

I. 平成29年度事業報告

1. 会勢報告

{総務担当：中西 美和、大橋 智樹}

【総 数】

(単位：人)

会 員	平成29年4月1日	平成30年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,447	1,370	62	139

会員資格

変更

正会員:	1,358	1,297	48	117	-69	8
準会員:	89	73	14	22	-8	-8

【内 訳】

(単位：人)

支 部	平成29年4月1日	平成30年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 (): 支部間 の移動
北 海 道	29	26	0	3	-3(0)
東 北	54	50	2	7	-5(+1)
関 東	780	751	30	61	-31(+2)
東 海	131	121	8	16	-8(-2)
関 西	253	244	15	23	-8(-1)
中国・四国	112	103	4	16	-12(+3)
九州・沖縄	79	68	3	12	-9(-2)
国 外	9	7	0	1	-1(-1)
賛 助 会 員	29社30口	28社29口	2社2社	3社3口	-1社-1口

2. 事業報告

{総務担当：中西 美和、大橋 智樹}

平成29年度は、一般社団法人日本人間工学会第5期（平成28年6月～30年6月）の2年目として、引き続き会員向けサービスの充実を図るとともに、学会改革・戦略委員会を中心に、今後の学会のあるべき姿を検討した。さらに人間工学研究のための倫理指針検討委員会を中心に、研究の多様化、社会動向の変化を踏まえ、「人間工学研究のための倫理指針」の改訂を検討した。

- (1) 平成29年度定時社員総会を平成29年6月3日に日本大学生産工学部において開催し、平成28年度事業報告・収支決算、平成29年度事業計画・収支予算等について審議し、決定した。
- (2) 第58回大会を鳥居塚崇大会長のもと平成29年6月3日(土)～4日(日)に日本大学生産工学部で開催した。なお、本大会は、6月1日～4日の期間で開催されるThe 2nd Asian Conference on Ergonomics and Design (ACED2017) (小谷賢太郎大会長) とジョイント開催した。
- (3) 機関誌「人間工学」の第53巻2～6号及び第54巻1号の計6冊を発行した。
- (4) 理事会を平成29年4月28日、6月2日、9月26日、平成30年3月1日の計4回開催した。
- (5) 平成29年度研究奨励賞(1件)、グッドプラクティス優秀賞(2件)の表彰を行った。
- (6) 人間工学専門家認定機構において、各種の専門家資格の試験を実施した結果、認定試験(A方式試験)合格者4名、筆記試験免除条項を適用した資格認定試験(B方式試験)合格者4名、準専門家合格者27名を新たに得た。その結果、平成28年度末現在の認定人間工学専門家は207名、準専門家112名、アシスタント12名となった。このほか、定期総会、講演会、シンポジウム、セミナー等を開催し、会報を4回発行した。
- (7) 以下の常設委員会・担当及び臨時委員会・担当において各事業を積極的に進めた。

7-1) 広報委員会

ホームページでの情報発信、ニュースレターを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。「人間工学博物館（バーチャルミュージアム）」の実装、グッドプラクティスデータベース (GPDB) の英訳掲載について検討した。

7-2) 編集委員会

学会誌の定期発行と内容の充実に努めた。編集委員会は対面、電子合わせて12回開催した。本年度は、投稿50編（原著40編、総説2編、短報2編、資料1編、技術報告1編、原著論文2編、実践報告1編、オープンデータ1編）を受け付けた。採否が判定した投稿論文は30編（採択10編、不採択19編、取り下げ1件、採択率33.3%）であった。

7-3) 国際協力委員会

ACED第2回大会を、6月1日～4日の期間で小谷賢太郎大会長のもと開催した。IEA評議会(2017.9.2～3@シンガポール)、ブラジルABERGOとの協力活動、ACED及びSEANESとの国際協力関連会議に委員長初め各委員が出席した。

7-4) ISO/TC159国内対策委員会

FDIS、DIS等の規格原案に関する計48件の投票を行うとともに、国内委員会を開催し（全体会議3回、分科会26回）審議を行った。また、国際会議出席（17回、のべ47名出席）などによって8件の新ISO規格の発行に寄与した。

7-5) 表彰委員会

表彰選考等に関係する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営のもと、平成29年度各賞受賞者に対する授与式を行った。平成30年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進めた。国際協力委員会とともに、IEAに表彰候補者の推薦等を行った。

7-6) 安全人間工学委員会

社会への情報発信、他学会とのリエゾン、安全工学シンポジウム2017でのOSの企画・運営を実施した。また、安全人間工学研究部会が主催・共催するシンポジウム・研究会の企画・立案・実施をサポートした。

7-7) 学術担当

日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。研究の倫理指針に関する検討を行った。

7-8) 企画担当

学会企画として、全国大会と関東支部大会での学生・若手向けの教育講演、ACED/JES 共同シンポジウムを開催した。さらに、研究部会活動の活発化を図るため、研究部会規程の改訂案を検討・作成し、上申した。

7-9) 学会改革・戦略委員会

多様化する社会ニーズと学術ニーズへ即応する基盤を整備するために、学会活動の活性化をはかる5つのアクションプラン(AP1~5)をまとめ、実現に向け活動を始めた。

7-10) 人間工学研究のための倫理指針検討委員会

「人を対象とする研究倫理に関する意識調査」(日本人間工学会会員及び認定人間工学専門家対象)を実施した。141名の回答を分析し、倫理指針の方向性について検討した。

7-11) 子どものICT活用委員会

子どものICT機器活用に関する人間工学課題について情報交換するとともに、ガイドラインの考え方等を整理した。また、それらの活動成果を第58回大会で「学校におけるICT機器活用に関する人間工学ガイドライン」として共有した。

7-12) IEA担当

IEA会長のもと、常任役員会議(EC会議)および評議会会議(Council会議)の運営、会員の要望への対応、その他IEAの事業方針に沿った活動を実施した。また、IEAウェブサイトの運営業務にも従事した。

7-13) 第58回大会担当

第58回大会(鳥居塚崇大会長・日本大学生産工学部)を6月3日(土)~4日(日)に日本大学生産工学部(千葉県習志野市)にて開催した。なお、本大会は、6月1日(木)~4日(日)まで同会場にて開催されたACED2017と共同開催した。500名(海外からは13ヶ国125名)を超える参加者があり、特別講演や大会企画を中心に公開講座、一般企画シンポジウム、一般発表、機器展示、懇親会等を行った。

(8) 支部、部会

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の計7支部と、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、海事人間工学研究部会、医療安全研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、安全人間工学研究部会、PIE研究部会、衣服人間工学部会、システム大会部会の計11研究部会が、多彩な活動を行った。

(9) 関連学術団体等と、59件の共催・協賛・記事掲載等を行った。

(10) 学会事務局では、JENC事務局業務、編集業務の担当など管理業務の見直しを行い一層の効率化と経費節減を図った。また、学会誌や大会講演集のJ-STAGEへの公開を進め、学会HPおよびJESニューズレターの配信により迅速な情報提供に努めた。

3. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

3-1. 広報委員会

{委員長：松田 文子、副委員長：山田クリス孝介}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努める。重要ニュースのお知らせ、学会主催/協賛等のイベント案内等をホームページにて情報発信した。
- (2) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」およびグッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続し、人間工学の社会への普及に努めた。
- (3) HP のスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家！」の企画・運営を引き続き行った。
- (4) 学会員へ JES ニュースレターの e-mail 配信を、引き続き学会事務局と連携し推進した。
- (5) 50 周年記念企画として継続検討してきた「人間工学博物館 (バーチャルミュージアム)」の実装に向け、必要な事項の検討を行った。
- (6) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の英訳掲載に向けて、検討を開始した。
- (7) Facebook ページを作成し公開した。

3-2. 編集委員会

{委員長：赤松 幹之、副委員長：榎原 毅}

- (1) 会誌「人間工学」の編集・発行
 - 1) 平成29年04月：第53巻2号 (pp. 25-64) : 原著2編 技術報告1編 他
 - 2) 平成29年06月：第53巻3号 (pp. 65-106) : 原著3編 他
 - 3) 平成29年08月：第53巻4号 (pp. 107-146) : 原著3編 他
 - 4) 平成29年10月：第53巻5号 (pp. 147-194) : 原著4編 他
 - 5) 平成29年12月：第53巻6号 (pp. 195-246) : 原著3編 他
 - 6) 平成30年02月：第54巻1号 (pp. 1-40) : 原著3編 他
- (2) 学会誌の投稿規程と執筆要項の改定
JES58回大会にて、編集委員会主催の企画シンポジウム「良い研究を生み出すための学会誌の役割」を行い、学会員との学会誌のあり方についての意見交換を踏まえ、現状の5つの投稿区分(総説・原著・短報・資料・技術報告)に加えて、リサーチ・イシューと実践報告を追加した。
- (3) クイック・レビュー(QR)制度
論文投稿の推進と投稿者の利便性を高めるため、大会と連動したクイック・レビュー制度を実践し、一定の成果を得た。QR制度の仮登録者は19名、本登録者は9名、論文投稿者は5名(採択0件、不採択5件)であった。
- (4) 編集委員会
対面委員会とメーリングリストによる電子編集委員会を隔月ごとに計12回開催した。対面委員会のうち2回は全体会議(6月習志野, 10月東京), 4回は複数拠点を結んだweb会議(2月東京・大阪, 4月東京・大阪, 8月東京・名古屋・大阪, 12月東京・大阪)とした。いずれも、個人単位のweb参加も可能とし、委員の利便性向上と委員会の活性化に寄与した。
- (5) 投稿論文数・採択率・査読期間
前年度に引き続き、採録率や査読期間に関する情報をホームページに掲載した。
平成29年度に受け付けた投稿論文は、通常投稿が45編(原著35編, 総説2編, 短報2編, 資料1編, 技術報告1編, 投稿規程改定後では原著論文2編, 実践報告1編, オープンデータ1編), QR制度投稿論文が5編(原著5編)であり、総数は50編(原著40編, 総説2編, 短報2編, 資料1編, 技術報告1編, 原著論文2編, 実践報告1編, オープンデータ

1編)であった。平成29年度に採否が判定した投稿論文は通常投稿が25編(採択10編,不採択14編,取り下げ1件,採択率40.0%),QR制度投稿論文が5編(採択0編,不採択5編,採択率0%)であり,全体では30編(採択10編,不採択19編,取り下げ1件,採択率33.3%)であった。平成29年度中に決定した査読者の延べ人数は129名(うち非会員者15名)であった。また,平成29年度に判定が確定した論文の平均査読期間(全投稿区分の投稿受付日から最終判定日までの日数)は,通常投稿が133.1日(採択163.1日,不採択110.1日),QR制度投稿論文が64.0日であり,全体では120.8日であった。

(6)その他,編集委員会所掌業務に対応した。

3-3. 国際協力委員会

{委員長:小谷 賢太郎、副委員長:鳥居塚 崇}

(1) 委員会開催

MLによる委員会の開催,そのほか関連事項について緊密な連絡を実施

(2) 理事会審議・報告

ACED2017/JES58 開催報告と IEA 関連の国際表彰について,IEA フェロー申請と推薦候補の検討についての審議など

(3) 国際交流

- ・ACED2017 大会の開催に関して国際協力委員からの支援
- ・IEA 評議会(シンガポール,9月2-3日)への参加

小谷委員長,鳥居塚副委員長,および藤田 IEA 会長,河合 IEA ICT 委員長が出席し,EC メンバー報告,International Development Committee 報告,Professional Standards and Education, Science, Technology and Practice Committee などからの報告, Historian report, IEA2018 大会(イタリア,フィレンツェ)の準備状況,IEA60 周年記念イベント, BRICS ネットワーク, Liberty Mutual Medal の受賞者など)などが行われた。

- ・国際表彰対応(提出資料の準備,表彰委員会との連携,IEA Award Committee との事務対応)
- ・AAEC(アトランタ,米国)開催に向けて JES とのアグリーメント作成(2018.1.12)
- ・ブラジル ABERGO との協力活動, JES 活動の紹介のため出席(小谷委員長,2017.9)
- ・ACED 引継ぎと SEANES との国際協力関連会議に出席
(小谷委員長,鳥居塚副委員長,藤田 IEA 会長バンコク,2018.1)

ACED 理事会のフィリピンへの引継ぎ,今後の ACED の活動と SEANES との関係についての議論が行われた。

(4) 国際活動関連記事

- ・第53巻3号 AEC2017 参加報告(佐藤望)
- ・第53巻5号 ACED2017(アジア人間工学デザイン会議)(国際協力委員会,小谷賢太郎,鳥居塚崇)
- ・第53巻6号 2017年度 IEA 評議会参加報告(鳥居塚崇,小谷賢太郎)

3-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長:横井 孝志、副委員長:佐藤 洋}

(1) 委員会開催、国際会議出席状況

- ・国内委員会:全体会議3回、分科会26回(メール審議含む)
- ・国際会議出席状況:17回の国際会議に延べ47名出席(ネット会議を含む)

(2) 発行規格、投票

〈新 ISO 規格〉:8件

- ・ISO 10075-1:2017 Ergonomic principles related to mental workload — Part 1: General issues and concepts, terms and definitions

- ISO 7250-1:2017 Basic human body measurements for technological design — Part 1: Body measurement definitions and landmarks
- ISO 9241-112:2017 Ergonomics of human-system interaction — Part 112: Principles for the presentation of information
- ISO 9241-125:2017 Ergonomics of human-system interaction — Part 125: Guidance on visual presentation of information
- ISO 9241-333:2017 Ergonomics of human-system interaction — Part 333: Stereoscopic displays using glasses
- ISO 9241-940:2017 Ergonomics of human-system interaction — Part 940: Evaluation of tactile and haptic interactions
- ISO 9241-960:2017 Ergonomics of human-system interaction — Part 960: Framework and guidance for gesture interactions
- ISO 7243:2017 Ergonomics of the thermal environment — Assessment of heat stress using the WBGT (wet bulb globe temperature) index

〈投票〉: NP:6件、CD:5件、DIS:5件、FDIS:6件、DTR:1件、SR:16件、CIB:9件

(3) 分科会活動 (メール審議含む)

- | | | |
|--------------------------------|----------|------------|
| • SC1(人間工学の一般原則)&WG | 主査: 青木和夫 | 分科会 4 回開催 |
| • SC3(人体寸法と生体力学) &WG | 主査: 榎原毅 | 分科会 3 回開催 |
| • SC4(人間とシステムのインタラクション) &WG&SG | 主査: 福住伸一 | 分科会 10 回開催 |
| • SC5(物理的環境の人間工学) &WG&SG | 主査: 澤田晋一 | 分科会 5 回開催 |
| • アクセシブルデザイン関連会議 | 主査: 青木和夫 | 分科会 4 回開催 |

3-5. 表彰委員会

{委員長: 青木 和夫、副委員長: 申 紅仙}

- (1) 表彰選考等に係る広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正な業務運営を行った。
- (2) 平成 29 年定時社員総会において功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞の授与式を行った。
- (3) 九州・四国支部大会、関東支部大会において、優秀研究発表奨励賞の授与を行った。
- (4) 論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞候補の選考を行うとともに、表彰の準備を行った。
- (5) 国際協力委員会とともに、IEA に表彰候補者の推薦等を行った。

3-6. 安全人間工学委員会

{委員長: 首藤 由紀、副委員長: 鳥居塚 崇}

- (1) 青木 (日大)・小松原 (早大)・酒井 (労働科学研究所)・佐相 (電力中央研究所)・首藤 (社会安全研究所)・鳥居塚 (日本大学)・中西 (慶應義塾大)・芳賀 (立教大)・山出 (社会安全研究所)・吉村 (海上技術安全研究所) の 10 人の委員で活動した。
- (2) 日本原子力学会社会・環境部会ほかとともに第 18 回「安全・安心のための管理技術と社会環境ワークショップー安全文化の醸成と全員参加の実現ー」を主催した。(平成 29 年 12 月 24 日 (日) 筑波大学東京キャンパス文京校舎)
- (3) 日本学術会議安全工学シンポジウム 2017 の実行委員に佐相委員が就任し、自動運転をテーマとしたオーガナイズド・セッションを企画・運営した。
- (4) 安全工学会外部有識者アドバイザリーボードに芳賀委員が出席している。
- (5) 安全人間工学研究部会による 3 回の研究会の企画に助言等を行った。

3-7. 学術担当

{担当: 横山 清子、吉村 健志}

学術担当として、日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。

- (1) 横幹連合へ学会推薦理事として参画した（横山理事）
- (2) 研究の倫理指針に関する検討を行った

3-8. 企画担当

{担当: 岡田 明、阿久津正大}

- (1) 全国大会（併催：ACED2017）において、以下の学会企画を実施した。
 - 1) 学会本部主催教育講演：学生・若手向けの教育講演シリーズ「人間工学研究を進めるにあたり知っておいてほしい7つのこと（ランチセッション）」、講演者：榎原 毅（名古屋市立大学大学院）（開催日：2017年6月4日）
 - 2) ACED/JES 共同シンポジウム「Cooperation in Asia on certification of professional ergonomists」、オーガナイザー：福住伸一（NEC）（開催日：2017年6月4日）
- (2) 関東支部大会において、以下の企画を学会と関東支部の共催で実施した。
学生・若手向けの教育講演シリーズ2「続・人間工学研究を進めるにあたり知っておいてほしい7つのこと」、講演者：榎原 毅（名古屋市立大学大学院）（開催日：2017年12月17日）
- (3) 研究部会活動の可視化や成果発表をさらに促進するため、研究部会規程の改訂案を検討・作成し、上申した。

3-9. 人間工学専門家認定機構

{機構長：福住 伸一、副機構長：横井 元治}

- (1) 会員状況（2018年3月31日現在）
人間工学専門家 207名（H29年度 資格取得者8名、退会者5名）
人間工学準専門家 112名（H29年度 資格取得者27名、退会者10名〔内3名は専門家へ登録〕）
人間工学アシスタント 12名（H29年度 資格取得者0名、退会者0名）
- (2) 資格認定試験及び審査実施状況
資格認定試験（A方式試験）を1回実施、受験9名、合格4名
筆記試験免除条項の適用（B方式試験）を1回実施、応募者6名 合格4名
準専門家：応募27名、書類審査に27名合格
アシスタント：応募0名
- (3) 定期総会・講演会の開催
講演会日時：2017年4月18日（火） 15:00～16:30
テーマ「人間工学教育最前線」
講演1：土屋文人（日本病院薬剤師会副会長）「人間工学的視点からみた医療安全（医療における人間工学教育の必要性）」
講演2：前川正実（北陸先端科学技術大学院大学）「イノベーション創出人材教育の成果と課題—人間中心設計の応用」
総会日時：2017年4月18日（金）16:35～17:30（総会后、交流会を開催）
出席者：28名、委任状：89名（交流会参加：14名）
- (4) 幹事会の開催
第38回日時：2017年9月2日（土）14:25～16:25 場所：日本教育会館
第39回日時：2018年3月22日（火）10:30～12:30 場所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス
- (5) 再認定の実施

- ・人間工学専門家 18 名、人間工学準専門家 5 名の再認定手続きが完了した。
- ・CPE シニア制度について検討を実施、2019 年運用開始に向け準備をおこなった。

(6) 国際会議

ACED2017(2017 年 6 月)に JES/ACED 共催シンポジウム「Overview of certified ergonomics expert qualification system in Japan and its issues」を開催、世界各国の CPE 制度についての議論をおこなった。

(7) シンポジウム、機構紹介の実施

- ・日本人間工学会第 58 回大会 (2017/6/3、習志野市) シンポジウム「人間工学専門家資格取得のきっかけと資格の活用を考える！」
- ・各支部大会での講演実施
- ・機構 PR 講演「目指そう！人間工学専門家」：東海支部大会 (10 月 21 日) 北海道支部大会 (11 月 11 日) 九州・沖縄支部大会 (12 月 8 日) 関西支部大会 (12 月 9 日) 中国・四国支部大会 (12 月 9 日)
- ・機構 PR シンポジウム「人間工学準専門家資格取得について」：関東支部大会 (12 月 16 日)

(8) CPE サロン (交流会) の開催：計 2 回、関東及び関西で開催した。関西での CPE サロンは初開催。

-1. 関東開催 参加者：20 名

開催日時：2018 年 2 月 22 日 (木) 15:30~17:50 会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス

テーマ「人間工学に基づく健康管理とワークスタイルを考える」

-2. 関西開催 参加者 11 名

開催日時：2017 年 10 月 4 日 (水) 15:30~18:00 会場：ナレッジサロン(グランフロント大阪内)

テーマ：「人間工学の重要性の再認識 ～さらなる普及に向けて～」

(9) CPE セミナーの開催

開催日時：2017 年 10 月 11 日 (水) 13:30~17:00 大和ハウス工業株式会社総合技術研究所

(10) 会報作成

会報を 4 回(第 51~54 号)発行した。また、会報 英語版 March 2018 を発行した。

(11) 人間工学グッドプラクティス (GP) 賞

表彰委員会と協力し、認定人間工学専門家による一次審査を実施し、6 月の JES 第 58 回大会にて第 6 回の表彰を行った。

(12) 試験ワーキンググループ活動

- ・面接の質の向上を目的とし、A 方式面接基準項目の改訂を実施した。
- ・受験者の負担軽減および受験者増加を見込み、大阪での A 方式試験実施を決定した。また、実施についての準備をおこなった。
- ・B 方式試験の終了について対外的 PR を実施した。
- ・B 方式試験受験者に対する書類不備削減のため、応募要領の見直しを実施した。

[臨時委員会・担当]

3-10. 学会改革・戦略委員会

{委員長：榎原 毅, 副委員長：吉武 良治}

- (1) 学会設立後 50 年が経過し、既存の学会運営モデルでは時代のニーズに即応することが困難となりつつある。多様化する社会ニーズと学術ニーズへ即応する基盤を整備するために、学会活動の活性化をはかる 5 つのアクションプラン (AP1~5) をまとめた。
- (2) 第 58 回日本人間工学会 (2017/6/3) にて、シンポジウム「学会活性化のためのアクションプランを皆で議論しよう！」を企画・開催、委員会で検討してきた AP について学会員との意見交換を行った。当日の議論内容を学会誌に寄稿した (人間工学 vol. 53 (6), p. 228-230)。
- (3) 日本人間工学会九州・沖縄支部会第 38 回大会 (2017/12/8) にて、大会長企画として「新しい支部活動のあり方

を皆で議論しよう！」の講演を行った。全国大会・支部大会のあり方について支部会員との意見交換を行った (AP4)。

(4) 電子選挙システムの導入に際し、選挙管理委員長と連携し、電子選挙の実施を支援した (AP1)。

(5) 第59回日本人間工学会大会と連携し、大会講演集の電子化について検討・実現を支援した (AP4)。

3-11. 人間工学研究のための倫理指針検討委員会 {委員長:石橋 基範、副委員長:大須賀 美恵子}

前年度に実施した「人を対象とする研究倫理に関する意識調査」(日本人間工学会会員(学生会員を含む)および認定人間工学専門家(準・アシスタントを含む)が対象)で、最終的に141名から回答を得た。分析した結果、以下の傾向が見えてきた。

(1) 所属組織に倫理審査委員会が「ある」と答えた回答者は45%、「ない」は46%であった。そのうち、大学・研究機関では「ある」が76%であった一方で、企業では「ある」が18%であった。

(2) 例えば企業では主観評価や行動観察を用いた研究が多い等、大学・研究機関との研究手法の違いや、倫理に対する意識の違いが伺えた。

(3) 「人を対象とした研究倫理」の教育機会がないという回答者が48%で、特に企業所属者の76%は「ない」との回答であり、学会として教育の機会を提供することが望まれる。

(4) 調査より企業と大学・研究機関で種々の違いがあるという現状が示され、原理原則は踏まえた上で、組織の実態に合わせた柔軟な運用が行える倫理指針が必要との方向性が見えてきた。

3-12. 子どもの ICT 活用委員会 {委員長:齊藤 進、副委員長:柴田 隆史、久武 雄三}

わが国では、国の戦略に沿った教育の情報化推進事業等により、小中学校における ICT 機器の導入と活用が急速に進められている。しかし、小中学校では、子どもの ICT 機器活用についての人間工学的視点はないままに、児童や生徒一人一台の情報端末や教室への電子黒板や実物投影機等の ICT 機器が導入されている現状である。

日本人間工学会 (JES) では、子どもの ICT 機器活用に関する人間工学課題を検討するため、子どもの ICT 活用委員会を設置し、各種情報を交換するとともに、ガイドラインの考え方等を整理してきた。

これらの活動成果を学会として共有するために、2017年6月に開催された JES 第58回大会において、本委員会として「学校における ICT 機器活用に関する人間工学ガイドライン」と題して発表した。そこでは、学校で ICT 機器を活用する際の人間工学的留意事項と児童・生徒の健康面への影響等を紹介した。

また、JES 内に限らず、本委員会の活動を広く周知させることに努めた。具体的には、柴田委員が所属大学で開講した教員免許状更新講習において、教員免許状を有する学校教員らを対象として、本委員会の活動や人間工学的視点について紹介した。また、そこでの教員の理解や成果については、JES 関東支部第47回大会にて報告した。その他、東北大学で開催された第24回情報リテラシー連続セミナーでも、学校教員や ICT 教育に関わる者を対象として、本委員会活動を紹介した。

3-13. IEA 担当 {担当:藤田 祐志、河合 隆史}

(1) IEA 会長 (藤田) として、常任役員会議 (EC 会議) および評議会会議 (Council 会議) の運営、会員の要望への対応、IEA の事業方針にそった活動ほかをおこなった。

(2) IEA ウェブサイトの運営業務に従事した (主に河合隆史が担当)。

3-14. 選挙管理委員会

{委員長：石橋 基範}

- (1) 第6期選挙を機に電子投票システムの導入について検討した結果、候補システム (i-Vote) の機能・コスト両面から実施可能との判断に至った。電子投票化に合わせて選挙規程の改訂を実施した。電子投票化および選挙規程改訂について第40回理事会 (2017年9月26日) で承認された。
- (2) 2017年9月11日付で第6期選挙管理委員会 (全9名) を組織した。
- (3) 代議員選挙では、2017年10月20日に選挙案内の葉書を発送するとともに投票サイトをオープンし、同11月12日23:59に締め切った。開票、諾否確認の結果、同11月29日に第6期代議員140名が確定した。
- (4) 役員選挙について電子投票化方法を精査した結果、現行システムの小変更では対応できないことが分かったため、第6期は従来通り郵送 (投票用紙方式) による投票とした (2018年1月29日に理事会承認)。
- (5) 役員選挙では、2018年1月31日に役員候補者推薦委員会より候補者の連絡があったことを受け、準備を経て、同2月22日に役員選挙案内を有権者 (第6期代議員) に発送した。投票期限は同3月15日 (必着) とした。開票の結果、役員候補者推薦委員会からの候補者全員の当選が確定し、同3月28日に候補者へ通知した。
- (6) これらの選挙経過および選挙結果を、第41回理事会 (2018年3月1日)、第42回理事会 (同4月25日) で報告した。

3-15. 役員候補者推薦委員会

{委員長：堀江 良典}

役員候補者推薦委員会内規に基づき、以下のように役員候補者の推薦を行った。

- (1) 推薦委員会委員による理事長候補者の推薦 (メール審議)
- (2) 理事長候補者本人の承諾
- (3) 推薦委員会 (2018年1月30日) において、理事・監事候補者を推薦
- (4) 理事・監事候補者本人の承諾
- (5) 候補者の略歴等の作成依頼と内容の確認 (必要に応じて修正)
- (6) 候補者略歴の選挙管理委員会への送付

3-16. ACED2017・第58回大会担当

{担当：小谷 賢太郎、鳥居塚 崇}

2017年6月3日 (土) ~4日 (日), 千葉県習志野市の日本大学生産工学部にて日本人間工学会第58回大会を開催した。第58回大会は6月1日 (木) から4日 (日) まで同会場にて開催された The 2nd Asian Conference on Ergonomics and Design (ACED2017) との共同開催とした。ACED への参加者も合わせると500名 (海外からは13ヶ国125名) を超える参加者があった。なお、1日および2日はシングルセッションで使用言語は英語, 3日および4日はパラレルセッションでACEDセッションは英語, JES (人間工学会) セッションは日本語, 特別講演およびACED/JES 共同セッションは英語を使用言語とした。一般セッション, ポスターセッション (ACEDのみ) のほか, 下記, 特別なイベントを行った。

- (1) 特別講演
 - 1) 「Human Factors Research in Automated Driving」 遠藤照昌 (トヨタ自動車)
 - 2) 「Advanced Topics on Ergonomics – Service Design」 持丸正明 (国立研究開発法人産業技術総合研究所)
 - 3) 「Biomechanical factors associated with pushing and pulling」 Andrew Todd (南アフリカ)
 - 4) Jose Orlando Gomes (ブラジル)
 - 5) 「Toward a development of HFE discipline in Asian region」 小谷賢太郎 (関西大学)
 - 6) 「Ergonomics in International Space Station: It's an almost life on the earth?」 坂下哲也 (JAXA)
 - 7) 「Ergonomics in Advanced Imaging Technologies」 河合隆史 (早稲田大学)

- 8) 「Ergonomics in India - Growth, Development and Issue」 A.K.Ganguli (インド)
- 9) 「Ergonomic issues in occupational health in Vietnam」 Nguyen Bich Diep (ベトナム)
- (2) ACED特別セッション (パネルディスカッション)
- 1) 「New Trend of Ergonomics and Design towards CD Society」 持丸正明(国立研究開発法人産業技術総合研究所)
- ・パネリスト: Yan Luximon (Hong Kong Polytechnic University)
 - ・パネリスト: 山岡俊樹 (京都女子大学)
 - ・パネリスト: 下村芳樹 (首都大学東京)
- 2) 「HFEの教育および普及について」 藤田祐志 (IEA会長)
- ・パネリスト: Andrew Todd (南アフリカ)
 - ・パネリスト: Jose Orlando Gomes (ブラジル)
 - ・パネリスト: Frederick Tei (シンガポール)
 - ・パネリスト: 小谷賢太郎 (関西大学)
- (3) JES / ACED共同シンポジウム
- 「Cooperation in Asia on certification of professional ergonomists」 福住伸一 (NEC, CPE/J機構長)
- 1) 「Professional Human Factors and Ergonomics Certification」 Frederick Tei (シンガポール)
- 2) 「Overview of certified ergonomics expert qualification system in Japan and its issues」 横井元治氏 (本田技研)
- 3) 「Challenges in Establishing the Professional Ergonomist Certification Scheme in Malaysia」 Muhammad Syafiq Syed Mohamed (マレーシア)
- (4) ランチセッション (学会企画)
- ・「人間工学研究を進めるにあたり知っておいてほしい7つのこと」 榎原毅 (名古屋市立大学, JES副理事長)
- (5) 委員会企画シンポジウム
- 1) 「学会活性化のためのアクションプランを皆で議論しよう！」 榎原毅 (名古屋市立大学), 吉武良治 (芝浦工大)
- 2) 「編集委員会として投稿論文に望むこと」 人間工学誌編集委員会
- (6) 日韓シンポジウム
- ・JESから2件
 - ・ESKから10件
- (7) 懇親会
- ・6月3日 (土) 日本大学生産工学部39号館2階食堂にて開催, 参加者は約400人だった。

4. 支部活動

4-1. 北海道支部

{副支部長: 平沢 尚毅、照井レナ}

(1) 支部役員会

1) 定例役員会

日時: 平成29年8月3日 (木) 16:00~18:00

場所: 小樽商科大学4号館251教室

議題 平成28年度北海道支部事業報告、平成28年度決算案並びに監査報告、平成29年度北海道支部事業計画

平成29年度北海道支部予算執行計画、平成29年度北海道支部大会及び総会の予定

平成30年度北海道支部大会及び総会の計画、その他

(2) 平成28年度北海道支部総会並びに大会

大会長: 照井レナ (旭川医科大学)

日時: 平成29年11月11日 (土) 13:00~

場所: 小樽商科大学札幌サテライト大講義室

1) 支部総会議題

議題 平成28年度北海道支部事業報告、平成28年度決算案並びに監査報告、平成29年度北海道支部事業計画
平成29年度北海道支部予算執行状況、平成30年度北海道支部大会及び総会の計画
その他

2) 支部大会

13:30～13:35 開会の辞 大会長：照井レナ（旭川医科大学）

13:35～14:55 一般演題 座長：平沢尚毅（小樽商科大学）

- ・目指そう！人間工学専門家 / 福住 伸一、横井 元治（人間工学専門家認定機構）
- ・動的安定機構を有する膝継手使用時の大腿義足歩行分析に関する研究 / 高橋優也（北海道科学大学大学院）他
- ・音声変換による振動メッセージの作成方法に関する検討 / 新家悠介、小林大二（千歳科学技術大学）
- ・ボタンの触感の異質性が高齢者のメンタルモデルに与える効果 / 南條 頌貴、小林 大二（千歳科学技術大学）
- ・中長期滞在型観光客を支援する情報環境に関する一考察 / 卓田郁也、山田敏弥、平沢尚毅（小樽商科大学）
- ・中長期滞在型訪日外国人旅行者による日常購買行動調査(2) / 山田敏弥、卓田郁也、平沢尚毅（小樽商科大学）
- ・地域顧客へ訴求する商品性の考察 - 大手コンビニチェーンを事例として - / 徐斌、平沢尚毅、伊藤一（小樽商科大学）

14:55～15:00 休憩

15:00～15:55 第1部 シンポジウム：認知症の世界

司会：照井レナ（旭川医科大学）

- ・体の中で起きていること / 賀来 亨（日本医療大学保健医療学部看護学科）
- ・認知症の方の創造する世界 / 照井 レナ（旭川医科大学医学部看護学科）
- ・認知症療養者の体験と理解～認知症のVRアプリで / 曾我 聡起（千歳科学技術大学情報システム工学科）

15:55～16:00 準備

16:00～16:55 第2部 ワークショップ：認知症療養者のためのサービス（ヒト・モノ・カネ・情報）を創出する～人間工学的視点で

ファシリテーター 照井レナ（旭川医科大学医学部看護学科）

16:55～17:00 閉会の辞 大会長：照井レナ（旭川医科大学）

【懇親会】

18:00～ おばんさいとお酒 シュクル

(3) その他

北海道支部Webサイト構築

4-2. 東北支部

{支部長：大橋 智樹}

(1) 支部役員会

本年度は支部研究会に合わせて支部役員会を3回開催するとともにメール会議を実施して、意見集約を行い支部行事の運営を進めた。

- ・支部役員会29-1

1) 日時：平成29年12月2日（土）13:00～14:00

2) 場所：山形テルサ

3) 議事：平成29年度第2回、第3回研究会について、全国大会開催について

- ・支部役員会29-2

1) 日時：平成30年2月3日（土）13:00～14:00

2) 場所：東北大学工学研究科総合研究棟101号室

3) 議事：平成29年度第3回研究会について、全国大会開催について

・支部役員会29-3

- 1) 日時：平成30年3月17日（土）14:30～17:30
- 2) 場所：東北大学工学研究科総合研究棟101号室
- 3) 議事：全国大会開催

(2) 定時支部総会

支部役員討議と了承を得て、メール審議にて実施。

- 1) 日時：平成29年5月26日 支部会員に総会資料をメールで送信。
平成29年5月26日～31日17時まで返信〆切にて実施。
- 2) 場所：宮城学院女子大学学芸学部大橋智樹研究室にて返信内容確認。
- 3) 議事：平成28年度事業報告、平成29年度決算報告案、平成28年度事業計画案、平成29年度事業予算案について支部役員会提案内容を了承。

(3) 支部研究会等

・支部研究会29-1

- 1) 日時：平成29年12月2日（土）14:30～17:30
- 2) 場所：山形テルサ
- 3) 研究会テーマ：「講演テーマ ものづくり現場における人間工学 Part III」（企画：山口，本多）
講演1：働きやすさの実現に向けた精密板金工場の生産改善（企業取組み事例の紹介）
講師：平塚 毅 氏（株式会社カネト製作所）
講演2：ものづくり現場における改善の進め方を考える
講師：山口 俊憲（山形県立産業技術短期大学校）

参加者：38名

・支部研究会29-2

- 1) 日時：平成30年2月3日（土）14:30～17:30
- 2) 場所：東北大学工学研究科総合研究棟101号室
- 3) 研究会テーマ：運輸産業における人間工学（企画：高橋，狩川）
講演1：貨物・旅客鉄道輸送場面における人間科学研究による安全対策
講師：北村 康宏 氏（鉄道総合技術研究所 副主任研究員）
講演2：船舶重航業務とチームマネジメント
講師：伊藤 耕二 氏（川崎汽船株式会社 船長）

参加者：30名

・支部研究会29-3

- 1) 日時：平成30年3月17日（土）14:30～17:30
- 2) 場所：東北大学工学研究科総合研究棟101号室
- 3) 研究会テーマ：他業種に活かす・他業種から学ぶ医療の人間工学（企画：大橋）
講演1：「医工学分野での慣性センサの応用例」
講師：佐川 貢一 氏（弘前大学 教授）
講演2：「航空管制、電力事業、そして医療の現場で見た人間工学」
講師：河野 龍太郎 氏（自治医科大学 教授）

参加者：35名

4-3. 関東支部

{支部長：三林 洋介}

- (1) 第47回関東支部大会・第23回卒業研究発表会
・開催日：平成29年12月16日（土）～17日（日）

- ・会 場:日本大学理工学部船橋校舎
 - ・大会長:松田礼先生
 - ・特別講演「人間工学で豊かなまちづくりを」、講演者:青木和夫氏(日本大学理工学部)
 - ・教育講演(本部・関東支部共催企画):学生・若手向け教育講演シリーズ2「続・人間工学研究を進めるにあたり知っておいてほしい7つのこと」、講演者:榎原毅氏(名古屋市立大学大学院)
 - ・人間工学順専門家資格PR(人間工学専門家認定機構)
 - ・一般講演 8セッション32題、計34題
 - ・卒業研究発表会 12セッション50題
 - ・懇親会
 - ・参加者:202名(正会員54名、非会員11名、学生137名)
- (2)支部委員会
- ・開催日:平成29年7月7日(金) 会場:首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス
平成29年12月16日(土) 会場:日本大学理工学部船橋校舎
 - ・議事:平成28年度事業報告案および決算案、平成29年度事業計画案および予算案、平成30年度(第48回)支部大会・第24回卒業研究発表会、他
- (3)支部総会
- ・開催日:平成29年12月16日(土) 会場:日本大学理工学部船橋校舎
 - ・議事:平成28年度事業報告案および決算案、平成29年度事業計画案および予算案、平成30年度(第48回)支部大会・第24回卒業研究発表会(平成30年12月15日(土)~16日(日)(予定)、会場:神奈川大学横浜キャンパス、大会長:高野倉雅人先生)、他
- (4)講演会・見学会
- ・開催日:平成30年3月16日(金)
 - 開催地:公益財団法人鉄道総合技術研究所(東京都国分寺市)
 - 講演:「鉄道の人間科学」、講師:小美濃幸司氏(人間科学研究部長)
 - 見学施設:車内快適シミュレータ、車内振動騒音評価シミュレータ、列車運転シミュレータ、その他
 - ・参加者:40名
- (5)ニューズレターの発行:見学会の案内(2月)

4-4. 東海支部

{支部長:斎藤 真}

- (1) 日本人間工学会東海支部総会開催
- ・開催日時:平成29年5月27日(土) 15:00-15:30
 - ・開催場所:名古屋市立大学桜山キャンパス(名古屋市瑞穂区)
- (2) 講演会の開催
- ・開催日時:平成29年5月27日(土) 15:45-16:45
 - ・開催場所:名古屋市立大学桜山キャンパス(名古屋市瑞穂区)
 - ・演題:「達成度手法における作業習熟の評価について」
 - ・演者:福田康明(名城大学 名誉教授)
- (3) 支部役員会
- ・第1回支部役員会 平成29年5月27日(土) 名古屋市立大学桜山キャンパス
 - ・第2回支部役員会 平成29年9月30日(土) 名古屋市立大学北千種キャンパス
 - ・第3回支部役員会 平成30年3月31日(土) 名古屋ガーデンパレス
- (4) 日本人間工学会東海支部2017年研究大会の開催

- ・開催日：平成29年10月21日(土)
 - ・開催場所：中京大学工学部(名古屋市昭和区)
 - ・大会長：井口弘和(中京大学 教授)
 - ・特別講演：特別講演「工学技術を利用した介護予防の実践」
種田行男(中京大学副学長)
 - ・若手人材支援企画：「目指そう！人間工学専門家」人間工学専門家認定機構 石橋基範
 - ・一般講演24題、参加者67名
- (5) 東海支部主催「実務者・初学者のための人間工学測定技法講座」
- ・第12回「製品の「心地」を評価する：ヒトが触れるモノを例にして」
平成29年5月19日(水)
松岡敏生(三重県工業研究所 プロジェクト研究課長)
 - ・第13回【特別企画】あなたもできる！統計解析が苦手な人のための超入門講座
—無料統計ソフト「R」の基本をマスターしよう—
(日本人間工学会東海支部・関東支部および人類動態学会の共催企画)
平成29年5月26日(金) (TKP 東京駅前会議室)
榎原 毅(名古屋市立大学大学院 講師)
松田文子(公益財団法人大原記念労働科学研究所 特別研究員)
山田泰行(順天堂大学スポーツ健康科学部 助教)
- (6) 東海支部支部長および役員選挙
支部長1名、役員17名、監査2名の候補者が選出された。

4-5. 関西支部

{支部長:白井 伸之介}

(1) 企画・行事等

1) 見学会(支部大会のプレ企画)

開催日：2017年12月8日(金)

場 所：兵庫県立工業技術センター(兵庫県神戸市須磨区、午前)，(株)アシックス スポーツ工学研究所
(兵庫県神戸市西区、午後)

時 間：10:00-16:30

参加者：18名

見学内容：(午前) モーションキャプチャシステム等の実験設備、官能評価検査室など。(午後) スポーツシューズ、スポーツウェア等の設計、製作、評価設備、データ取得専用陸上トラック施設など。

※詳細は見学会報告として人間工学 Vol. 54, No. 1 に掲載

2) 支部大会

開催日：2017年12月9日(土)

主 催：日本人間工学会関西支部

場 所：神戸市産業振興センター(兵庫県神戸市中央区)

大会長：才木 常正先生(兵庫県立工業技術センター)

参加者：97名

行事内容：

- ・特別講演「惑星ロボティック探査の現状と将来～あかつき金星探査を題材に～」
佐藤 毅彦 先生(宇宙航空研究開発機構)
- ・オーガナイズドセッション 1 1セッション4題
テーマ「海と人」

- ・オーガナイズドセッション 2 1セッション4題
テーマ「人間工学支援機関における技術支援・研究事例の紹介」
- ・一般講演 6セッション31題
- ・活動紹介「目指せ！人間工学専門家」
山本 雅康 先生 (ボッシュ株式会社)
- ・懇親会

※詳細は大会報告として人間工学 Vol. 54, No. 1 に掲載

3) 春季講演会

開催日：平成30年3月24日（土）

時 間：14:00～16:10

場 所：大阪工業大学 OIT 梅田タワー（大阪市北区）

講演1：「不便益研究から見る運転支援システムと自動運転」

講 師：平岡 敏洋 先生（名古屋大学未来社会創造機構）

講演2：「免疫指標によるストレス評価—健常成人を対象とした疫学研究—」

講 師：中田 光紀 先生（国際医療福祉大学 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部）

参加者：42名

4) 協賛

日本認知心理学会 安全心理学部会 第38回研究会

主 催：日本認知心理学会 安全心理学部会

演 者：島田 貴仁 先生（科学警察研究所犯罪予防研究室長）

演 題：「犯罪被害の予防と安全心理学」

日 時：平成29年10月14日（土）

場 所：大阪大学大学院 人間科学研究科（大阪府吹田市）

参加者：20名

(2) 会議・総会等

1) 第1回企画幹事会

開催日：平成29年7月14日（金）

会 場：大阪大学 大学院人間科学研究科

2) 第1回評議員会役員会合同会議

開催日：平成29年12月9日（土）

会 場：神戸市産業振興センター

3) 平成30年度～平成31年度 評議員選挙

投票期間：平成29年12月28日（木）～平成30年1月11日（木）

4) 選挙管理委員会（評議員選挙結果開票）

開催日：平成30年1月24日（水）

会 場：大阪大学 大学院人間科学研究科

5) 第3回企画幹事会

開催日：平成30年2月2日（金）

会 場：大阪大学 大学院人間科学研究科

6) 第2回評議員会（メール審議）

開催日：平成30年2月5日（月）

議 題：優秀発表賞の選考

7) 平成30年度～平成31年度 支部長・副支部長選挙

投票期間：平成30年3月5日（月）～3月14日（水）

8) 選挙管理委員会（支部長・副支部長選挙結果開票）

開催日：平成30年3月20日（火）
会 場：大阪大学 大学院人間科学研究科

9) 会計監査

開催日：平成30年 3月19日（月）
会 場：大阪大学 大学院人間科学研究科

10) 第2回評議員会役員会合同会議

開催日：平成30年 3月24日（土）
会 場：大阪工業大学 OIT 梅田タワー

11) 支部総会

開催日：平成30年 3月24日（土）
会 場：大阪工業大学 OIT 梅田タワー
出席者：32名（+委任状 27名）

12) 優秀発表賞授賞式（支部総会時）（当年度支部大会発表の学生・若手研究者が対象）

〔発表者〕 阪田 真也（兵庫県立大学）

「定常視覚誘発電位と視点に対する空間情報を利用したインタフェースの検討」

〔発表者〕 高田 優（神戸市立工業高等専門学校）

「竿先から得られた加速度波形の魚種による差異」

〔発表者〕 中谷 真太郎（鳥取大学）

「舌の運動リハビリテーションシステムのための健常者運動能力評価」

4-6. 中国・四国支部

{支部長：村田 厚生}

(1) 支部理事会開催

第1回 2017年12月9日（土）山口大学吉田キャンパス共通教育棟14番教室
第2回 2018年3月28日（水）岡山大学工学部5号館3階305室

(2) 支部総会開催

2017年12月9日（土）山口大学吉田キャンパス共通教育棟メディア講義室

(3) 第50回日本文学工学部中国・四国支部大会

2017年12月9日（土）山口大学吉田キャンパス
大会長：内野英治先生（参加者：73名）

一般講演 31件

(4) 支部講演会開催

開催日：2017年12月9日（土），場所：山口大学吉田キャンパス共通教育棟メディア講義室
題目：「心を考慮した人工知能へ ～知情意の考慮～」
講師：萩原将文氏

（慶應義塾大学理工学部教授・前日本知能情報ファジィ学会会長）

(5) 平成29年度支部表彰の実施

支部表彰選考委員（村田厚生支部長（岡山大学），田口豊郁支部理事（川崎医療福祉大学），横山詔常支部理事（広島県立総合技術研究所））による絶対評価を実施した結果，以下の論文2本が優秀論文として表彰された。

論文番号：304

題目：知覚明度を考慮したカラー画像のモノクロ変換

著者：沖田淳（山口大学大学院） 他4名

論文番号：501

題目：視線追従課題を利用した立位動揺解析評価システムの開発

著者：南木望（広島大学） 他 11 名

4-7. 九州・沖縄支部

{支部長:和田 親宗}

(1) 第 38 回支部代議員会

- 1) 月 日:平成 29 年 12 月 8 日 (金)
- 2) 会 場:JR 博多シティ会議室 (福岡県福岡市)
- 3) 議 題
 - ・平成 29 年度活動報告と決算
 - ・平成 30 年度活動計画と予算案
 - ・平成 30 年度第 39 回大会について
 - ・その他

(2) 第 38 回支部総会

- 1) 月 日:平成 29 年 12 月 8 日 (金)
- 2) 会 場:JR 博多シティ会議室 (福岡県福岡市)
- 3) 議 題
 - ・平成 29 年度活動報告と決算
 - ・平成 30 年度活動計画と予算案
 - ・平成 30 年度第 39 回大会について
 - ・その他

(3) 第 38 回九州・沖縄支部大会

- 1) 月 日:平成 29 年 12 月 8 日 (金)
 - 2) 会 場:JR 博多シティ会議室 (福岡県福岡市)
 - 3) 大会長:村木里志 (九州大学院 芸術工研究院)
 - 4) 発表演題数:特別講演 1 件, トピック 1 件, 一般講演 8 件
- 参加者:31 名

・特別講演

「電気生理学的手法を用いたヒトの聞こえの客観化とその応用」
白石君男 (九州大学名誉教授)

・トピック

「目指そう、人間工学専門家」
福住伸一・横井元治 (日本人間工学会 人間工学専門家認定機構)

・最優秀発表賞

「シリアスゲーム開発を目的とした異なるリズムにおける足踏み運動の検討」
妻木 翔太(九州大学大学院芸術工学府)

・優秀発表賞

「心的回転課題の成績と 2D:4D 比の関係」
植田 遥平(九州大学大学院芸術工学府)

・懇親会:プロント プロント アミュプラザ博多店 (福岡県福岡市)

(4) 「九州支部第 38 回大会講演集(九州人間工学 第 38 号)」の作成

(5) 「九州人間工学 第 38 号」の発送

5. 研究部会活動

5-1. 航空人間工学部会

{部会長：竹内 由則}

(1) 研究目的

航空人間工学に関する知識の普及および情報の共有化を目的として、本年度は、「空の安全—新たな動向」をテーマとした活動を行った。

(2) 方法・手段

上期の活動として例会を開催した。また、下期の活動として施設見学会を行った。概要は以下のとおりである。

1) 例会（公開講座）

第99回例会（公開講座）を以下の内容で開催した。

本年度のテーマ「空の安全—新たな動向」に沿った講演を行い、活発な議論が行われた。

日時：2017年7月7日（金） 10:00-16:30

場所：野村不動産天王洲ビル2階

参加者数：114名

講演：

- ・演題 「将来の航空交通システムに関する長期ビジョン」
講演者 本江 信夫 氏（航空局 交通管制部 交通管制企画課 航空管制技術調査官）
- ・演題 「運航乗務員の疲労リスク管理について」
講演者 浅田 勉 氏（公益財団法人 航空輸送技術研究センター 技術部 部長）
- ・演題 「Flight Data Predictive Caution System フライトデータの活用例」
講演者 条内 健太郎 氏（ANA 安全推進センター 安全推進部 B737 機長）
- ・演題 「ヘリコプターのダウンウォッシュが地上に及ぼす影響について」
（朝日航洋株、JAXA、防衛大学校の協力研究）
講演者 長尾 牧 氏（朝日航洋株式会社 航空事業本部 運航統括部）
- ・演題 「インドネシア エアアジア QZ8501 便の事故から学ぶ」
講演者 宮地 秀明 氏（日本航空株式会社 運航本部 運航安全推進部 SMS 推進室 室長）

2) 施設見学会

2017年度施設見学会を以下の要領で実施した。

日時：2018年1月31日（水） 13:30-16:30

場所：東京メトロ 総合研修訓練センター

参加者数：30名

内容：総合研修訓練センターの見学と質疑応答

3) 委員会

本部会の運営に係る方針を決定するために、今年度は委員会を2回開催した。

委員会の概要は以下のとおりである。

- ・第65回委員会（2017年度第1回 委員会）

日時：2017年12月14日（水） 16:30-18:00

場所：野村不動産天王洲ビル14F 会議室

議題：

- ・本年度活動状況
- ・第99回例会（公開講座）
- ・第100回例会（公開講座）
- ・見学会
- ・今後の委員会・幹事会の予定

- ・ JES 研究部会「航空人間工学部会」の継続に関して
- ・ 委員（朝日航洋）の変更に関して
- ・ 第 66 回委員会（2017 年度第 2 回 委員会）
 - 日時：2018 年 3 月 22 日（木）10：30-12：00
 - 場所：（公財）航空輸送技術研究センター（ATEC） 会議室（予定）
 - 議題：
 - ・ 下期見学会について
 - ・ 第 100 回例会（公開講座）について
 - ・ 2017 年度会計報告
 - ・ 2017 年度事業報告
 - ・ 2018 年度事業計画
 - ・ 第 100 回例会の準備
 - ・ 今後の予定 / その他（幹事会社に関して）

その他、委員会および例会の活動準備等のため、2017 年度は幹事会を 4 回開催した。

4) ホームページの運営

インターネットホームページにより、非会員も含め多くの関係者に対して航空人間工学への理解・関心を深めることに貢献した。例会の申し込みはホームページから行えるようになっており、広く周知できることで、今年度の活動においては非会員からの参加申し込みも多数あった。

(3) 成果及び展望

本年度は「空の安全—新たな動向」をテーマに、例会では「将来の航空交通システムに関する長期ビジョン」「運航乗務員の疲労リスク管理について」「Flight Data Predictive Caution System フライトデータの活用例」「ヘリコプターのダウンウォッシュが地上に及ぼす影響について」「インドネシア エアアジア QZ8501 便の事故から学ぶ」の演題を通して、参加者間でそれらの知見を共有し、理解を深めることができた。

また、施設見学では東京メトロ様の総合研修訓練センターの見学を実施した。航空と鉄道分野は異なるものの安全運行を堅持するための教育・訓練の重要性、安全への思いは共通するものであり、意見交換を実施することによりヒューマンファクターに注目した安全面の向上の重要性ならびに安全への強い思いを関係者で再認識・共有できたものとする。

5-2. アーゴデザイン部会

{部会長：高橋 克実}

(1) 目的と活動テーマ：

本部会は、モノづくりやサービス開発のために人間工学とデザインが融合した学際分野(アーゴデザイン)に対して、産学共同で研究を行い情報発信することを目的としている。平成 29 年度は「フューチャーエクスペリエンス：FX（三方よしのビジョン提案型デザイン手法）の実践」～ユニバーサルデザイン 4. 0～を活動テーマに、三方よしのビジョン提案型デザイン手法の実践を中心に進め、三方よしのビジョン提案型デザイン手法のための手法確立に向け、方向性を見いだす研究とその成果の情報発信を行ってきた。

(2) 部会運営と主な活動内容

- ・ 部会員：104 名(正会員 69 名、学生会員 35 名、平成 30 年 3 月 13 日現在)
- ・ 活動概要：平成 29 年度はフォーラム 1 回、大学間交流イベント 1 回、コンセプト事例発表会 1 回、見学会 1 回、合宿研究会 1 回、他に、幹事会 3 回、総会 1 回、フューチャーエクスペリエンスワーキンググループ (FX-WG) ミーティング 1 回等の様々な活動を実施してきた。以下に主な活動を記す。

1) 大学間交流イベント2017開催（平成29年6月17日）

フューチャー・エクスペリエンス (FX) の手法にチャレンジしよう」

- 於：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス 参加者： 33名、教員 4名
- 2) 第3回フューチャー・エクスペリエンス・フォーラム (FXフォーラム) 開催 (平成29年6月27日)
「ソーシャルを考慮した未来の体験と事例」 於：キャンパス・イノベーションセンター 参加者： 32名
◆講演「音×IoTによるFuture Experience - Sound Intelligence-」 田中培人 (富士通デザイン)
「NECのソーシャルバリューデザインと事例」 河野泉 (NEC事業イノベーション戦略本部)
山岡和彦 (NEC事業イノベーション戦略本部)
「FXワークショップ合宿での事例」 早川誠二 (人間中心よろず相談、代表)
- ◆ディスカッション
「FXに向けて 参加者とのディスカッション」 上田義弘 (富士通デザイン)、郷健太郎 (山梨大学)、
西内信之 (首都大学東京)、山崎和彦 (千葉工業大学) 他
- 3) 2017年度コンセプト事例発表会開催 (平成29年9月5日)
於：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス 参加者：59名
特別講演1件、口頭発表：13件、ポスター展示：16件
◆特別講演「研究開発の過程を社会に開く」 株式会社OTON GLASS 島影圭佑氏
- 4) 見学会開催(平成29年9月29日)
見学先:東京スカイツリータウン 佐川急便館内物流現場、見学会参加者：22名
- 5) 2017年度合宿研究会開催(平成30年3月16日、17日)
於：マホロバマインズ三浦 研修室 参加者：23名
テーマ「地域社会を変革する新規事業/
スタートアップのためのフューチャーエクスペリエンス (FX) デザイン」
(1) 講演：「熱中小学校プロジェクトの活動」 講師：竹村譲氏
(2) 講演：「yorunomachiプロジェクトの活動」 講師：小林謙斗氏 (千葉工業大学)
- 6) 2017年度部会総会開催 (平成30年3月17日)
於：マホロバマインズ三浦 研修室 参加者：20名
2017年度活動報告及び決算、2018年度活動計画及び予算の審議、承認
- 7) WG活動：
・FX_WG活動中 (担当幹事：高橋、山崎、上田、早川、郷、西内、安藤、笠松、細田)
・UD実践ガイドラインWG 関連活動。(担当幹事：山崎、柳田、堀野)
書籍「すべての子供に遊びを：ユニバーサルデザインによる公園の遊び場づくりガイド」柳田
- 8) 独自ドメインによるアーゴデザイン部会ホームページの運用、部会員メーリングネットワークの運用、
幹事会メーリングネットワークの運用を実施。
- (3) 成果と展望：
・社会、環境面からもデザインを考えるフューチャーエクスペリエンス(FX)の概念を提唱し、三方よしのビジョン提案型デザイン手法として、人間工学的デザインアプローチとしてするための可能性について研究を続けて来た。これにより、今後の当部会の人間工学の研究成果として大きな可能性を掴む実践的な手法について検討が出来ました。
・今後は、進化させた Experience Vision の手法に基づいた Future Experience 手法の確立を進め、社会・環境課題をテーマにした実践事例を通じた研究のまとめをしていきたい。

5-3. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長：梶谷 哲也}

(1) 活動目的：

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交

換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者の拡大、育成をはかる。

(2)方法・手段：

1)第1回研究会を7月29日(土)に、首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパスにて開催した。

【講演】 櫻井 翔 先生(電気通信大学)

「Metaphysical VR - 知情意を動かすバーチャルリアリティ技術-」

2)第2回研究会として11月25日(土)に、講演3件とシンポジウムを首都大学東京サービスロボットインキュベーションHubと首都大学東京南大沢キャンパス1号館2階220室にて開催した。

【講演】

共通演題：「製品」とその開発プロセス

a)島影 圭佑 先生 ((株) OTON GLASS)

b)安藤 俊也 先生 (X-STYLE inc.元CASIO DESIGN CENTER)

c)小林 宏 先生 (東京理科大学工学部機械工学科教授・株式会社イノフィス(東京理科大学発ベンチャー)開発者・創業者)

【シンポジウム】

「新領域デザインにアプローチする開発プロセスの違い」について

司会：相野谷威雄(首都大学東京 システムデザイン学部)

パネリスト：(敬称略)

島影 圭佑、安藤俊也、小林 宏(東京理科大学)、久保田 直行(首都大学東京 システムデザイン学部)

3)第26回日本人間工学会システム大会の感性情報処理・官能評価部会セッションⅠ、Ⅱにおいて、若手研究者による12件の発表を組織・支援した。成果など詳細はシステム大会部会から報告の予定。

(3)成果：

1)第1回研究会には8名の参加があり、その多くが研究部会員であった。

主に、五感を超えるVR、人間の“心”はつくれる、VRでヒトはもっと賢くなれる、の3点を中心に、最新の研究結果をご報告いただいた。

VRによる認知の変化・拡張、情報のトップダウン型処理メカニズムの活用、さらに、五感を扱うインターフェース技術の新たな設計方法について、それぞれ議論を深めることができた。特に、ヒトの“時間”に関する認知に関して、全く新しい見方をお示しいただいた。

なお、反省点として様々な要因から最終的に研究会の日程が決まらなかったために学会を通じた告知が遅くなってしまった事が挙げられる。

2)第2回研究会には研究部会員以外の会員や大学院・学生および非会員の先生方、30名以上の参加があった。

そこでは先端的なもののづくりの現状と問題点を出席者と共有することができた。加えて、新領域でのものづくりに必要となる様々な支援は文科省以外の多くの機関からも得られることが報告された。

まず講演では、それぞれの研究テーマに至った経緯と最新の研究成果の紹介、およびそこでの問題点についてわかりやすくご報告いただいた。

次に、シンポジウムでは、先端的な研究の進め方や研究を持続するための競争的資金の獲得方法などについて問題提起があり、その一部についてはフロアを含めた検討・意見交換がなされた。

以上の議論から、新領域での研究(デザイン)は、これまでの考え方や制度にとらわれない新たな視点と広い視野をもって望む必要があることが指摘された。

(4)今後の展望：

近年、VR(およびAR)や人工知能を応用した実用研究が多く報告されている。それらの一部は、情報システムの驚異的な性能向上にともなう質的な環境変化がもたらした成果と考えることもできる。一方で、今年の研究会の検討からは、現在でも「ヒト」を中心とした先端・新領域の研究は十分とは言えないことが指摘された。

その一つの解決策として、本部会が目標にしている、これまで職人の職能としてのみ伝えられてきたモノづくりのノウハウを技術化・見える化を通して、それらのノウハウを現職の職人・デザイナーに提案・還元することが

考えられる。

5-4. 看護人間工学部会

{部会長：水戸 優子}

(1) テーマ

より安全で安楽な根拠ある看護技術や看護器械・用具の開発、QOLの向上に向けた環境の提案、快適な仕事場や住まい、高齢者に優しい環境などの研究成果を発信する。

(2) 手段・方法

1) 第25回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会の開催

平成29年11月11日(土)に敦賀市立看護大学(福井県敦賀市)において伊部亜希大会長主催にて開催した。一般演題、および特別講演「健康に良い発酵食品」松井徳光先生(武庫川女子大学生生活環境学部食物栄養科 教授)、教育講演「看護技術の理論化」阿曾洋子先生(武庫川女子大学看護学部 教授)よりご講演いただく。

2) 「人間工学」誌に部会会員が論文投稿するよう呼びかける。また、一般社団法人日本人間工学の機関誌は「人間工学」のみであり、看護部会が発行する「看護人間工学研究誌」は、機関誌ではないことをホームページに明記した。

3) 看護人間工学研究誌第18巻を発行(平成30年3月)し、部会員に送付した。

4) ホームページやメーリングリストを活用し、日本人間工学会第59回大会への参加を広くよびかけた。

(3) 成果

1) 第25回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会

参加者は30名、一般演題9題の発表があった。教育講演、特別講演、いずれも活発な意見交換が行われた。

2) 部会会員による日本人間工学会誌への論文投稿

今年度は残念ながら部会会員の論文の掲載はなかった。

3) 看護人間工学研究誌第18巻を発行(平成30年3月)し、部会員に送付した。

寄稿2編、原著1編、第25回看護人間工学部会抄録などを掲載した。

(4) 問題

1) 看護人間工学部会会員で、まだ日本人間工学会に加入していない会員が多いが、把握できていない。

2) 「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿が少ない。

3) 部会のホームページの英語版を設けることを目標として取り組んできたが、出来ていない。

(5) 展望

1) 平成30年度において一般社団法人日本人間工学会より独立する準備を行い、平成31年度より看護人間工学会(仮称)を設立する。具体的には、名称および目的、規約、ロゴマーク、ホームページ、その他刊行物などを見直し、新たに作成する。これらは平成30年10月27日に予定している総会にて会員の承認を行う。

2) 看護人間工学部会25年の活動報告をまとめ、一般社団法人日本人間工学会に投稿する。

5-5. 海事人間工学研究部会

{部会長：吉村 健志}

(1) テーマ

海事分野における人間工学研究の可能性に向けて

(2) 手段・方法

1) 企画セッションの提案1

平成29年6月3日～4日、日本人間工学会第58回大会にて一般企画シンポジウムを下記の通り、企画、開催した。

テーマ：超小型センサが切り開く、将来の海事研究

目的：近年のセンサ技術の発展は目覚しく、超小型の各種(加速度、気圧等々)センサが開発されている。そし

て、2023年頃には毎年1兆個のセンサを活用する時代が訪れ、これらがネットワークに繋がることで社会構造や生活習慣が今とは大きく変わる。そこで、本シンポジウムでは、海事（人の活動に伴い発生する海または海上に関する事柄）の分野に注目して、超小型センサを利用した最新の人間工学研究の事例について紹介し議論を進める。

オーガナイザ：才木常正（兵庫県立工業技術センター）、司会：吉村健志（海上・港湾・航空技術研究所）

講演：

1. 「ウェアラブル生体センサの開発と海上労働への応用」樋口行平（アフォードセンス）
2. 「口腔内総合センシング技術による潜水士の安全確保」瀧澤由佳子（兵庫県立工業技術センター）
3. 「釣りを科学するセンサ技術」荒木望（兵庫県立大学）

2) 企画セッションの提案2

平成29年12月9日、平成29年度日本人間工学会 関西支部大会にて企画セッションを下記の通り、企画、開催した。

テーマ：海と人

オーガナイザ：吉村健志（海上・港湾・航空技術研究所）

講演：

1. 「海事人間工学研究部会の歩み」吉村健志（海上・港湾・航空技術研究所）
2. 「唾液硝酸イオンによる沿岸無線局オペレーターの心的負荷評価を目指して」北村健一，村井康二（神戸大学大学院），脇田慎一（産業技術総合研究所）
3. 「表情の画像解析と生理計測による緊張ストレス状態の推定評価」重森康佑（大阪府立大学），有馬正和，北川末幾子（大阪府立大学大学院），中丸陽子（大成学院大学）
4. 「竿先から得られた加速度波形の魚種による差異」高田優，有馬拓海，森田二郎（神戸市立工業高等専門学校），荒木望，前中一介（兵庫県立大学），瀧澤由佳子，才木常正（兵庫県立工業技術センター）

3) 研究会・見学会の開催

平成29年9月8日、東京湾海上交通センター（東京マーチス）の見学会を開催した。センター長をはじめ、多くの責任者・担当者から丁寧な説明・対応を受け、参加者の理解促進に貢献できた。

4) 幹事会の開催

随時、メールによる幹事会を開催し、部会長を兵庫県立工業技術センターの才木常正氏に交代するとともに、事務局を神戸大学から兵庫県立工業技術センターに移す作業を円滑に進めた。

(3) 成果

研究会及び見学会を開催することにより、最新の海事関連研究に関する情報を広く発信できた。また、企画シンポジウムを通じて、海事分野における人間工学研究の応用事例を把握できた。

(4) 展望

人間工学を専門とする若手研究者が、海事分野における研究課題に関心を持てるよう、さらに魅力的な研究会及び見学会を開催する。

5-6. 医療安全研究部会

{部会長：土屋 文人}

(1) 活動目的

医療安全研究部会が設置されてから10年を迎え、研究部会としては最後の年になることから、わが国の医薬品関連医療事故とその防止に関する人間工学的視点からの対応策等についてまとめを行うこととする。

(2) 活動内容及び成果

当初の予定では医療安全研究部会の10年間における部会活動の総まとめとして、この10年間における医療安全と人間工学の関わりについてわが国における医薬品関連医療事故防止に関する経緯や学術研究についてまとめを行うこととしていたが、年度内にそれらを作成することができなかったことから、研究活動は平成29年度で終

了するが、まとめについては平成30年度秋を目処に作成する予定である

5-7. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長：新家 敦}

(1)活動目的

ビッグデータ解析に人間工学の知恵を与える。部会員向けに、実験や調査だけでなく、ビッグデータの活用を促す。活動テーマを「次のユーザ行動を予測するためのビッグデータ」とした。

(2)手段・方法

1)幹事会の運営。

2)勉強会の開催。本年度は以下3回の勉強会を実施した。

・第3回ビッグデータ人間工学勉強会（関西）

日時 2017年06月26日 16:30～18:30

場所 京都女子大学（京都市東山区）B校舎 B401 実習室

テーマ KH-Coder を活用したデータ処理 -ネットのデータやアンケートデータの処理-

講演1) KH-coder の人間工学における活用

山岡 俊樹（京都女子大学）

講演2) ビジネスホテルの口コミ情報から要求事項の抽出

村田 愛（京都女子大学）

講演3) アンケートデータの取りまとめ方

脇 結花莉（京都女子大学）

講演4) 事例紹介（株）ユーザーローカルのテキストマイニングツール

千田 有佳里（京都女子大学）

参加者 18名

・第4回ビッグデータ人間工学勉強会（関西）

日時 2017年10月23日（月） 16:00～18:00

場所 島津製作所 本社・三条工場（京都市中京区）W70号館15号室

講演1) 法律家はどのように「事実」を扱っているか

山本 了宣（弁護士・後藤貞人法律事務所）

講演2) ビッグデータと個人情報保護法

山本 了宣（弁護士・後藤貞人法律事務所）

参加者 16名

・第5回ビッグデータ人間工学勉強会（関東）

日時 2017年11月21日（火） 16:00～18:30

場所 芝浦工業大学 芝浦キャンパス（東京都港区）307教室

講演1) ビッグデータ時代の統計手法（人間工学領域を対象として）

榎原 毅（名古屋市立大学）

参加者 35名

(3)成果

3回の勉強会を行ったが、毎回新しい参加者の応募があり、確実に部会のすそ野が広がっていることが感じられた。第3回のテキストマイニング手法の紹介では、得られたデータをそのまま解析することから、さらに一歩進んだ手法が紹介された。テキストマイニング手法がより実践的で独創的なアイデアを創出するツールとして使われるようになる可能性が示されたと思われる。

第4回の弁護士による講演は、人間の行動を証拠として積み上げ、事実を導き出し、「立証」していく弁護士という職業は、法律をベースにしてテキストを扱うプロフェッショナルであると考えて依頼したものである。小規模

な案件では、昔ながらの手作業での証拠固めで良いものの、関係者が膨大になる大規模な案件では、これまでの手法では対応が不可能であり、IT を使用した新しい手法が必要になってくるという指摘があった。人間工学がビッグデータを扱う際には、これまでの人間工学の考え方や手法を流用するだけでは対応できないという、皆が薄々感じていたことをズバリと指摘したものである。

第5回のビッグデータ時代の統計手法では、今までの少数サンプルから母集団の特性を推測するという考え方が一部否定された。今後、どういう考え方で、どういうデータを、どのように収集して解析するか、統計的手法を目的により再構築していく必要があることを考えさせられた。特に生体データを扱う場合に、24時間365日のデータを取得することが、表層的に考えている以上のことが得られるという指摘は、ビッグデータの強みと共に、強すぎるがゆえの留意点とすべきであると思われる。

このように、これまで複数回の勉強会を通じて、人間工学としてビッグデータを扱う場合の輪郭が臚気ながら見えてきたように思う。

5-8. 安全人間工学研究部会

{部会長：鳥居塚 崇}

(1) 研究部会の会員と、研究会の参加者を結ぶメーリングリスト（H30年3月末現在170名登録）を用いた情報発信を行っている。鳥居塚（日大）ほか、中西（慶應義塾大）、吉村（海技研）、山出（社会安全研究所）が幹事メンバー。安全人間工学委員会と常に情報を交換・共有し、安全人間工学委員会（首藤由紀委員長）の委員も部会運営に協力した。

(2) 平成29年度は3回の研究会を開催（主催・共催を含む）した。その日時、場所、演題は下記のとおりである。

1) 第27回研究会（産業組織心理学会作業部門研究会および認知心理学会安全心理学部会と共催）

日時：2017年5月20日（土）14:00～17:00

場所：立教大学池袋キャンパス マキムホール3階301教室

テーマ：ドライブレコーダ/運転記録の安全マネジメントへの活用

企画・司会および話題提供者1：芳賀繁（立教大学）

話題1：企画の趣旨と登壇者の紹介

話題提供者2：北村憲康（東京海上日動リスクコンサルティング）

話題2：ドライブレコーダを用いた安全教育の現状と課題

話題提供者3：坂口哲夫（練馬タクシー）

話題3：ドライブレコーダを活用した安全運行管理

話題提供者4：佐々木 敏宏（日本航空）

話題4：日本航空における飛行データを利用した安全管理について

話題提供者5：富本直樹（JR西日本）

話題5：運転状況記録装置を活用したヒューマンエラーの聞き取り調査

企画趣旨：車上、機上に搭載された運行/運転記録データは事故調査だけでなく、日常の安全マネジメントにとって極めて有用である。日本航空では1970年代から事故の時だけに開封するDFDR(Digital Flight Data Recorder)とは別にフライトデータを記録し、航空機の飛行中の状況をモニタする仕組みを研究・開発し、1980年からDFOM(Daily Flight Operation Monitoring)-現在のFDM(Flight Data Monitoring)-を導入した。道路交通においては、映像記録型ドライブレコーダが2003年に練馬タクシーの努力で開発され、タクシー業界を中心に安全マネジメントへの利用が進んでいる。また、企業の自家用営業車を運転する社員等に向けた安全教育にも活用されている。鉄道ではこのような装置の普及が遅れていたが、ATS-Pを装備した鉄道車両などには走行・操縦に関わるデータが記録されていて、2005年に起きた福知山線脱線事故の調査では重要な役割を果たした。このため、国土交通省は事故後に全ての列車に運転状況記録装置の搭載を義務づけるに至った。JR西日本では2016年からヒューマンエラーを懲戒しないという方針の下で、エラーをおかした本人と管理者とが運転状況記録装置の映像・音声記録も参照しながら事実を確認する取組みを始めている。本研究会では、これらの取組みを紹介するとともに、

その効果や運用上の留意点をお話し頂いた。そのうえで、運輸業界以外にも応用可能か、その際に解決すべき問題は何か、などについてもディスカッションを行った。

2) 第28回研究会(産業組織心理学会作業部門研究会および認知心理学会安全心理学部会と共催)

日時:平成29年8月5日(土)14:00~17:00

場所:立教大学池袋キャンパス12号館 地下第1第2会議室

テーマ:「歩きスマホ研究の最前線1」

企画:芳賀繁, 司会:北村康宏

話題提供者1:武内寛子(JR西日本 安全研究所 ヒューマンファクター研究室)

話題1:駅構内における歩きスマホの実態調査

話題提供者2:辛島光彦(東海大学 情報通信学部 経営システム工学科)

話題2:地図アプリを利用した歩行と紙地図を利用した歩行の行動比較

企画趣旨:歩きスマホが危険で迷惑なことは誰でも知っているが、科学的な研究によって得られた実証データを公表し、効果的な対策を提言することは学会の重要な任務だと考える。このシリーズの第1回目として、JR西日本安全研究所の武内寛子先生と東海大学情報通信学部の辛島光彦先生から最近の研究成果を報告していただく。

3) 第29回研究会(産業組織心理学会作業部門研究会および認知心理学会安全心理学部会と共催)

日時:平成29年11月9日(木)17時30分~

場所:立教大学池袋キャンパス10号館 203号室

テーマ:「歩きスマホ研究の最前線2」

企画・司会:芳賀繁(立教大学)

話題提供者1:加藤麻樹(早稲田大学)

話題1:「周辺視野制限の”歩きスマホ”の軌道への影響」

話題提供者2:芳賀繁(立教大学)

話題2:歩行中の携帯電話使用が注意と歩行に及ぼす影響:室内実験による検討

趣旨:いわゆる歩きスマホの危険性が随所で指摘されているが、大多数のユーザは事故に

あうこともなく歩きスマホを続けている。手元を注視しながら直進することができる理由の一つとして、周辺視野の視覚情報による歩行方向の把握が挙げられる。歩きスマホ中の周辺視野の仕様に着目し、通常歩行と歩きスマホに対して、周辺視野を制限する条件を課した場合の歩行軌道を測定した。その結果、歩きスマホ中の周辺視野制限が歩行軌道に有意に影響するため、夜間等の歩きスマホの危険性が高いことがわかった旨、報告された。一方、芳賀は2011年から、二重課題法を用いて携帯電話使用が歩行者の視覚的、聴覚的注意を阻害する効果について、学生たちと室内実験を繰り返している。使用した携帯電話はガラケーとスマートフォンを含み、その使用は、通話、文字入力、動画閲覧、ゲーム、LINEのやりとりと多岐にわたる。歩行は実験室内のルートをたどることから始め、階段の昇降を経て、現在はトレッドミル上の歩行を行わせている。これらの試みと得られたデータを振り返り、携帯電話使用の危険性を実験心理学的手法で検証する可能性について議論した。

(3) このほか、日本人間工学会第58回大会にて当研究部会主催のシンポジウムを開催したほか、安全委員会と協力し、学術会議主催の安全工学シンポジウム2017におけるJES発信のオーガナイズドセッションを企画した。

5-9. PIE 研究部会

{部会長:三宅 晋司}

1. 第58回大会と合同開催されたACED2017にてシンポジウムPsychophysiology in Ergonomicsを開催し、部会員から5演題が発表された。
2. IEA2018にてシンポジウムPsychophysiology in Ergonomicsを提案した。部会員6名とIEAのTCであるPIE(部会の本体)メンバーから1名が発表予定である(全員、アクセプト済み)
3. 第3回ワークショップを関西支部総会(3月24日)に併せて開催し、前年度3月に部会編として刊行した資料集「一商品開発・評価のための一『生理計測とデータ解析ノウハウ』~生理指標の特徴、測り方、実験計画、デ

ータの解釈・評価方法～」に執筆していただいた中田光紀教授に「免疫指標によるストレス評価 - 健康成人を対象とした疫学研究 -」の講演をしていただいた。出席者は協力学生も含めて約30名であった。

4. 平成30年4月3日現在 部会員数61名（うち、日本人間工学会非会員23名）。

5-10. 衣服人間工学部会

{部会長：猪俣 美栄子}

(1) 活動テーマ

平成24年度より「グリーンファッションに関する研究」をテーマに活動してきた。平成29年度は、9月に下着の縫製工場、レース工場、糸の紬と染め、布の織りと染め、加工に関わる企業の見学を行い、2月に「アパレル業界の現状」についての講演を計画した。

(2) 活動内容

役員会3回、研究例会2回を開催した。

- 1) 第1回役員会：平成29年6月12日（月） 於 文化学園大学
- 2) 第2回役員会：平成29年8月28日（月） 於 福井県一宮（研究例会先）
- 3) 第3回役員会：平成30年3月26日（月） 於 文化学園大学
- 4) 第1回研究例会（見学会）

- ・開催日：平成29年8月28日（月）・29日（火） 於 福井県、愛知県
- ・見学先：

- ①北陸ワコール縫製（株）：婦人下着製造で高付加商品のフルコーディネート生産、小ロット生産を実施。また、人体の繊細な形状について適合度を駆使したパターンに落とし込んでいる。
- ②（株）タケダレース：レース商品のニーズに対応した商品企画・製造がなされている。レースの模様はコンピュータ上で、1本の糸が幾重にも複雑に絡んだ状態を作り上げ、さらにどの糸も途中で削除されないように、また繊細な下着用の注文は立体感をも出しながら、出来上がりを想定してのインプットは職人の技といっても過言ではない。
- ③（株）SOTOH：毛織物を計算された整理加工（織ったばかりの布を製品化するための工程）することで数種の風合いを出す技術はこの工場の最大の売りといえる。
- ④中外国島（株）：日本の機織りの歴史に沿った織り工程の技術を伺った。このことから日本毛織物の高品質さを確認できた。
- ⑤トヨタ産業技術館：豊田佐吉が考案した機織り機の機能性の高さや、日本における機織り発展の貢献度を知ることが出来た。

5) 第2回研究例会（講演）

- ・開催日：平成30年2月28日（水） 於 文化学園大学
- ・講演：（株）アオ 代表取締役社長 五十嵐 昌樹氏
- ・テーマ：「アパレル業界における現状と今後の展望」
日本のものづくり業界をどのように存続させるか等、話題提供の場となった。

5-11. システム大会部会

{部会長：衛藤 憲人}

(1) 活動テーマ：

感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会が中心となり、人間工学システム連合大会と称して26年前に発足した。今回は早稲田大学・東北大学が担当（共催）し、早稲田大学・西早稲田キャンパス（東京都新宿区）にて3月12日、13日の二

日間の日程で開催された。企業展示を含め、のべ 100 名を超える参加者があり、成功裏に終了した。特に今回の大会においても遠方からの若手研究者、企業関係者の参加がさらに増加したことに加え、特別セッションとして Strasser 先生 (Siegen 大学) の特別公演を行われ、極めて活発な情報交換が行えた。大会および大会開催に向けて数回の幹事会を開いたので報告する。

(2) 部会運営と主な活動内容

システム大会幹事会

・第 1 回システム大会幹事会

日時：2017 年 6 月 17 日(土) 15:00~16:00

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス (東京都新宿区)

議題：本大会の今後の事業形態・開催形態 等

・第 2 回システム大会幹事会

日時：2017 年 9 月 23 日(土) 15:00~16:00

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス (東京都新宿区)

議題：参加費、夜話、セッション、広報、その他部会運営について

・臨時システム大会幹事会

日時：2017 年 10 月 21 日(土) 15:00~16:00

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス (東京都新宿区)

議題：Strasser 先生招聘に関する臨時審議

・第 3 回システム大会幹事会

日時：2017 年 12 月 16 日(土) 15:00~16:00

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス (東京都新宿区)

議題：プログラム枠作成、企業展示検討、他

・第 4 回システム大会幹事会

日時：2018 年 3 月 3 日(土) 15:00~16:00

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス (東京都新宿区)

議題：最終プログラム作成、大会進行詳細決定、他

(3) 展望：

発足時は身内開催の性質が強かったシステム大会であるが、近年全国の研究者より演題が集まるようになった。これを機に、より開かれた学会を目指し、JES 発展に向けて積極的展開ができればと考えている。また部会の論文誌「人とシステム」の英文紙を順次発行中である。

Ⅲ. 平成30年度事業計画(案)

1. 事業計画

{総務担当：石橋 基範、中西 美和}

- (1) 一般社団法人日本人間工学会は、人間工学を実践する学術団体として、安寧な社会システムを構築するために寄与することを目指す。
- (2) 第59回大会を大橋智樹大会長のもと平成30年6月2日(土)～3日(日)に宮城学院女子大学で開催する。
- (3) 平成30年定時社員総会を平成30年6月2日(土)に宮城学院女子大学において開催し、平成29年度事業報告・収支決算、平成30年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4) 第60回大会を青木和夫大会長のもと2019年6月15日(土)～16日(日)に日本大学理工学部駿河台キャンパスで開催することとし準備を進める。
- (5) 理事会を年4回以上開催する。
- (6) ホームページならびにニューズレター等を中心に広報活動を推進することで人間工学の普及に努める。
- (7) 機関誌「人間工学」の第54巻2～6号および第55巻1号の計6冊を発行する。
- (8) 認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年1回、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を年1回実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント各試験を年4回程度実施する。その他、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会、セミナーを開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (9) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め、得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、総務担当、財務担当、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、安全人間工学委員会、学術担当、企画担当、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、若手支援委員会、企業活動推進委員会、学会改革・戦略委員会、倫理指針検討委員会(正式名称：人間工学研究のための倫理指針検討委員会)、子供のICT活用委員会、IEA担当、第59回大会担当および第60回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (10) 支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。ビッグデータ人間工学研究部会、安全人間工学研究部会、PIE研究部会、衣服人間工学部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、海事人間工学研究部会、ワーク・アーゴノミクス研究部会、システム大会部会の計11研究部会で活動を行う。
- (11) IEA(国際人間工学連合)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEA会長業務のサポート、IEAウェブサイトの運用支援、次年度IEA評議会への出席準備、IEAアワード申請への協力、IEA内の各委員会の協力を行う。
- (12) ISO/TC159(人間工学)分野の規格の作成・審議および人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。TC159/SC3、TC159/SC4、TC159/SC5関連の国際会議に出席し、人間工学規格の策定や審議に貢献する。
- (13) 平成30年度各賞の授与式を行う。また平成30年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。各表彰制度の公正かつ効率的な運営および国際表彰への対応の仕組みの検討・整備を進める。
- (14) 安全問題にかかわる日本人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (15) 日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローする。
- (16) 若手会員の研究、キャリア形成、交流を支援する。
- (17) 企業での人間工学活動を可視化し、アクティブにするための活動を行い、企業のメンバーの倍増を目標とする。
- (18) 多様化する社会ニーズと学術ニーズへ即応する学会改革アクションプランについて具体的な制度設計を行い、順次実装・展開をはかる。
- (19) 学会主催の公開講座、シンポジウム等の行事に関する企画と調整を行う。
- (20) 学会事務局は、学会内外の情報伝達の要としての役割を果たすとともに、迅速で正確な業務の執行に努め、学会運営の基盤を支える。また、適宜業務内容を見直し、その効率化と経費節減をはかる。

2. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

2-1. 広報委員会

{委員長：松田 文子、副委員長：齋藤 祐太}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努める。重要ニュースのお知らせ、学会主催／協賛等のイベント案内等をホームページにて情報発信していく。
- (2) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」の登録者数増加に向け、学会事務局、人間工学専門家機構などと連携し、大会等の場で積極的な登録サポート広報活動を行う。
- (3) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続し、開設 10 周年の記念企画を計画する。
- (4) HP のスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家！」の企画・運営を引き続き行う。
- (5) 学会員へ JES ニュースレターの e-mail 配信を、引き続き学会事務局と連携し推進する。
- (6) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の英訳掲載に向けて、引く続き検討していく。
- (7) Facebook の有効活用を進めていく。

2-2. 編集委員会

{委員長：赤松 幹之、副委員長：村木 里志}

- (1) 学会誌「人間工学」の年6号分の編集・発行業務を行う。
- (2) 「人間工学領域発展のための場」としての学会誌のあり方について、方針を定める。
- (3) 論文投稿の推進を図る。投稿推進につながるクイック・レビュー制度を継続するほか、推進施策について引き続き検討を行う。
- (4) 投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備および編集委員会業務の効率化を図るため、広報委員会と協力・連携し、電子査読管理システムを継続運用する。遅滞ない業務遂行を実現するため、学会事務局の協力を仰ぐ。利便性向上のために、必要に応じてシステムの改訂を行う。
- (5) 研究上の倫理的配慮と利益相反の申告、著作権譲渡に関して、学術担当と連携して会員への啓蒙をはかる。
- (6) 編集委員会を月1回開催する。うち、6回は対面委員会、6回はメーリングリストによる電子委員会とする。また対面委員会のうち2回程度は全体会議、4回程度は数拠点つないだweb会議とし、いずれも個人単位のweb参加を可とする。これにより、委員会経費の節減を図るとともに、編集委員の居住地格差が起きないようにする。
- (7) 本年新設した学会誌の新しい投稿区分を積極的に活用し、人間工学領域の発展を目指した投稿の促進と新しい課題の共有を行い、学会誌を通じた学会員との対話の場を提供する。
- (8) その他、編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる。

2-3. 国際協力委員会

{委員長：鳥居塚 崇、副委員長：小谷 賢太郎}

- (1) IEA 評議会(フィレンツェ、イタリア 8月予定)への参加
国際協力委員が JES からの council member として3名分の投票権執行
- (2) 国際協力活動およびその他
 - ・IEA アワード申請への協力
 - ・IEA 内の各委員会への協力
 - ・ACED 評議会 (IEA2018 会期中に開催)の準備と出席
 - ・学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加
 - ・学会誌への国際学会参加報告の執筆

・そのほか、JES 活動に関する海外への情報発信など

2-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：佐藤 洋、副委員長：横井 孝志}

ISO/TC159（人間工学）分野の規格の提案、作成、審議、ならびに人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。

(1) 会議：全体会議3回、分科会延べ30回前後開催予定

(2) 日本主導で審議が予定されている項目

・WG2(高齢者・障害者の人間工学)

・ISO/TR 22411 Ergonomic data and ergonomic guidelines for the application of ISO/IEC Guide 71(2nd Edition)

・SC1（人間工学の一般原則）

・ISO/DIS 27501 - The human-centred organization — Guidance for managers
r consumer products

・SC4（人間とシステムのインタラクション）

・ISO/CD 21055 Ergonomics - Accessible Design - Minimum legible font size for people at any age

・ISO/DIS 21056 Ergonomics - Accessible design - Guidelines for designing tactile symbols and letters

・ISO/AWI 24500-1 Ergonomics - Accessible design - Part 1: Indicator lamps on consumer products

・ISO/CD 24500-2 Ergonomics - Accessible design — Auditory signals — Part 2: Voice guides for consumer products

(3) 国際会議予定

・TC159/SC3 関連会議、TC159/S4 関連会議、TC159/SC5 関連会議ほか

2-5. 表彰委員会

{委員長：堀江 良典、副委員長：水野 有希}

(1) 表彰選考等に関係する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営を行う。

(2) 功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞の選考を行い、各受賞者に対する授与式を行う。

(3) 前年度大会における優秀研究発表奨励賞の授与を行う。

(4) 表彰委員会ウェブサイトの拡充を図るとともに、受賞者や表彰事例の周知等、学会内外への情報提供に努める。

(5) 本学会以外の国内外の組織の表彰に対する候補者を推薦する。

2-6. 安全人間工学委員会

{委員長：首藤 由紀、副委員長：鳥居塚 崇}

(1) 日本学術会議安全工学シンポジウム2018の実行委員に佐相委員が就任し、オーガナイズド・セッションを企画・運営するとともに、幹事学会（日本機械学会）はじめ関係学会と共にシンポジウム全体の運営を行う。

(2) 人間工学の視点から安全上の諸問題について社会に向けた発信を行うため、ウェブサイトを立ち上げる。

(3) 安全人間工学研究部会による研究会などを通じて、特定テーマに関する議論を深め、社会に向けた提言をとりまとめて発信する。

(4) 安全に関わる研究活動を行っている他の学協会との連携の幅を広げ、新しい交流・情報交換の機会をつくる。

(5) 安全人間工学研究部会による研究会等の企画・運営をサポートする。

2-7. 学術担当

{担当：横井 郁子、青木 和夫}

- (1) 日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、および、文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的に注視していく。
- (2) 「人間工学研究のための倫理指針」について研究動向等から検討する。

2-8. 企画担当

{担当：岡田 明}

- (1) 全国大会において、以下の学会企画を実施する。
 - 1) 学会本部主催教育講演：学生・若手向けの教育講演シリーズ3「人間工学研究で役立つ統計学」、講師：榎原 毅（名古屋市立大学大学院）の企画を行う。
 - 2) 学会本部／大会共催企画：特別シンポジウム「知のネットワークでつなぐレジリエンス」の企画を行う。
- (2) 学会主催または支部・研究部会等との共催の講座や行事等に関する企画と調整を行う。
- (3) 研究部会活動の可視化や成果発表を引き続き促進するため、各部会の活動状況を把握し、成果発表や企画等の働きかけを行う。

2-9. 人間工学専門家認定機構

{機構長：福住 伸一、副機構長：鳥居塚崇}

- (1) 資格認定試験を実施する。

資格認定試験（A 方式試験）を年1回、2会場で実施する（東京、大阪）。筆記試験免除条項の適用（B 方式試験）を年1回実施する。

準専門家・人間工学アシスタント試験を年4回程度実施する。

A 方式試験：2018年9月8日（土）日本教育会館（東京）及び大阪クロススクエア（大阪）
- (2) 定期総会、講演会、幹事会を開催する。

総会 日時：2018年4月17日（火）16：30～17：30
会場：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス

講演会 日時：2018年4月17日（火）14：45～16：20
会場：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス
テーマ：企業におけるUXの実践

講演 1：井出有紀子（NEC）「現場を考慮した新システムの企画/リニューアルの事例紹介～NECのユーザーエクスペリエンス（UX）手法を用いて～」

講演 2：松本啓太（富士通デザイン）UXデザインとイノベーションの潮流およびICT企業での人間工学の活用

幹事会（2回開催予定）
- (3) 機構長の改選を行う。
- (4) 再認定を促進するため、個別にご案内の連絡をし、ホームページにも再認定の手続きについて掲載する。
- (5) シンポジウムを開催する。

日本人間工学会第59回大会（2018年6月、宮城学院女子大学）においてシンポジウムを開催する。

タイトル：活躍する人間工学専門家

発表者：浅田晴之氏（株式会社オカムラ）、佃 五月氏（シャープ株式会社）、大井美喜江氏（三菱電機株式会社）、鳥居塚崇氏（日本大学）

各支部大会時にCPE活動紹介を行う

- (6) 機構ホームページ、会報、人材DB (ERGO Directory)、学会大会、広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める。
- (7) 「人間工学グッドプラクティス賞」(GP 賞) の審査に積極的に協力する。
- (8) 学会内組織、他学会、他の資格認定組織との連携を行う。
- (9) CPE セミナー、CPE サロン (交流会) を開催する。

[臨時委員会・担当]

2-10. 若手支援委員会

{委員長：申 紅仙, 副委員長：加藤 麻樹}

- (1) 若手会員 (20代学部生・大学院生中心) の研究やキャリア形成を支援することを目的とした活動を行う。
- (2) 学生や若手が学会活動に継続的に関わることができるような枠組みを検討する。
- (3) 全国大会、支部大会などの機会を活用し交流会を複数回開催する。
- (4) 必要に応じて、大学を超えた学生たちの自主的な活動についても支援を行う。

2-11. 企業活動推進委員会

{委員長：易 強, 副委員長：善方 日出夫、下村 義弘}

- (1) 委員会活動の目的、目標
 - 企業での人間工学活動をもっと可視化して、アクティブにするための活動を行う。
 - 日本人間工学会の活動に参加する企業のメンバーの倍増を目標とする。
- (2) アクションプランの作成
 - 企業での人間工学活動の現状を把握する。各支部、委員会に参加している人からヒアリング、委員会のオブザーバーになっていただく。
 - 企業での人間工学活動のアクティブメンバーのネットワークを構築する。SNSや掲示板MLを活用して、相互訪問など連絡を密にする。抱えている案件、悩みを気軽に話し合える仕組みを検討する。
 - 目標を絞り、産官学の連携による短期的なプロジェクトを立ち上げて、活動するモデルを構築する。
- (3) 活動成果の顕在化
 - 学会のホームページを通じて情報発信する。
 - 全国大会や地方大会で発表やシンポジウムを開催する。
 - 他の委員会と連携を取る。

2-12. 学会改革・戦略委員会

{委員長：榎原 毅, 副委員長：山田クリス孝介}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会などと連携・協力のもと、多様化する社会ニーズと学術ニーズへ即応する学会改革アクションプランについて具体的な制度設計を行い、順次実装・展開をはかる。
- (2) 必要に応じて、学会改革アクションプランについて会員と定期的な意見交換 (意識調査・シンポジウムなど) を行う。
- (3) アクションプランを実現するために必要となる各種規程類の整備を行い、学会活動の活性化を促す基盤整備を進める。

2-13. 人間工学研究のための倫理指針検討委員会 {委員長:石橋 基範、副委員長:榎原 毅}

当初計画していた倫理指針の改訂にまで至っておらず、当委員会の活動を次期も継続する。平成30年度内に理事会へ提案、平成31年度総会での承認を目標として、具体的な作成作業に着手する。また、近接領域の学会との連携について検討する。

2-14. 子どもの ICT 活用委員会 {委員長:柴田 隆史、副委員長:岡田 衛}

- (1) タブレット端末や電子黒板などの ICT 機器が学校に導入されている状況を鑑み、子どもが ICT 機器を活用する上での人間工学課題を検討し、各種情報を交換するとともに、ガイドラインの考え方等を引き続き整理する。
- (2) 学校教員のみならず、児童生徒に対しても分かりやすい人間工学ガイドラインの作成を目指し、社会への貢献を図る。例えば、フライヤーやポスター等として公開するとともに、各地域の小中学校等へ配布し活用して頂くことを検討する。
- (3) 引き続き、JES 以外の他研究会などの機会を活用し、JES 会員以外の協力も得ながら人間工学ガイドラインを周知させることにより、効果検証や改訂等へフィードバックさせることを検討する。

2-15. IEA 担当 {担当:藤田 祐志、河合 隆史}

- (1) IEA 会長の諸業務にあたる (藤田祐志)。
- (2) IEA ウェブサイトの運用業務に従事する (主に河合隆史)。
- (3) その他必要なこと

2-16. 第 59 回大会担当 {担当:大橋 智樹}

【開催日】2018年6月2日 (土) ~3日 (日)

【大会会場】宮城学院女子大学

【懇親会場】仙台国際ホテル

- (1) 大会企画特別シンポジウム2件, 大会企画特別講演1件
- (2) 学会・大会合同企画シンポジウム1件, 学会企画教育講演1件
- (3) 一般企画シンポジウム10件
- (4) 一般講演 (口頭発表) 171件
- (5) 学・協会等から協賛 (予定42団体)
- (6) 大会案内はウェブサイト (<https://www.ergonomics.jp/conference/2018/>) を活用して行う。

2-17. 第 60 回大会担当 {担当:青木 和夫}

【開催日】2019年6月15日 (土) ~16日 (日) (予定)

【大会会場】日本大学理工学部駿河台キャンパス

3. 支部活動

3-1. 北海道支部

{支部長：平沢 尚毅}

(1) 会議

- 1) 支部役員会 平成30年5月中旬（予定）
 - ・平成29年度北海道支部事業報告、平成29年度決算案並びに監査報告
 - ・平成30年度北海道支部事業計画、平成30年度北海道支部予算執行計画
 - ・平成30年度北海道支部大会及び総会の予定
 - ・その他

(2) 平成30年度支部総会並びに大会

大会長：小林 大二（千歳科技大）

日 時：平成30年9月頃（予定）

場 所：千歳科技大（予定）

1) 支部総会議題

- ・平成29年度支部事業報告、決算報告並びに監査報告
- ・平成30年度予算案、支部事業計画案
- ・平成31年度支部総会並びに大会について

3-2. 東北支部

{支部長：大橋 智樹}

(1) 支部役員会

- ・年3回以上開催予定（支部研究会時に開催）
- 他、必要に応じメール審議にて実施

(2) 支部総会

- 1) 日時：平成30年5月下旬開催（予定）
- 2) 場所：未定
- 3) 議事：平成29年度事業報告、平成29年度決算報告
平成30年度事業計画案、平成30年度事業予算案、など。

(3) 支部研究会

年3回以上の開催を予定。支部内の複数地域での開催を通じ活動の活性化を目指す。

(4) その他

研究者と実務家の意見交換、連携支援を積極的に進める計画である。

3-3. 関東支部

{支部長：矢口 博之}

(1) 第48回関東支部大会・第24回卒業研究発表会

- ・開催日：平成30年12月15日（土）～16日（日）（予定）
- ・会場：神奈川大学 横浜キャンパス
- ・大会長：高野倉雅人先生
- ・特別講演、企画セッション、一般講演、卒業研究発表会など

(2) 支部委員会 年2回開催予定

開催日：平成30年6月予定 会場：首都大学東京

平成30年12月15日(土)(予定) 会場：神奈川大学
通信支部委員会を必要に応じて開催

(3) 支部総会

開催日：平成30年12月15日(土)(予定) 会場：神奈川大学

(4) 見学会

開催日：平成31年3月に実施(予定)

(5) その他

- ・企業・研究機関交流、講演会などを開催(予定)
- ・ニューズレターの発行
- ・支部HPの整備を推進 など

3-4. 東海支部

{支部長：松岡 敏生}

(1) 日本人間工学会東海支部総会開催

- ・開催日時：平成30年5月26日(土) 15:00-15:30
- ・開催場所：名古屋市立大学サテライトオフィス会議室(名古屋市中村区)

(2) 講演会の開催

- ・開催日時：平成30年5月26日(土) 15:45-16:45
- ・開催場所：名古屋市立大学サテライトオフィス会議室(名古屋市中村区)
- ・演題：「達成度手法における作業習熟の評価について」
- ・演者：坂本直久 ((株)モリタホールディングス技術研究所所長)

(3) 支部役員会

- ・第1回支部役員会 平成30年5月26日(土)13:30-14:30、名古屋市立大学サテライトオフィス会議室(名古屋市中村区、年2回から3回開催予定、必要に応じてメール審議を実施。)

(4) 日本人間工学会東海支部2018年研究大会の開催

- ・開催日：平成30年10月20日(土)
- ・開催場所：三重大学大学院工学研究科(三重県津市)
- ・大会長：池浦良淳(三重大学大学院 教授)

(5) 日本人間工学会東海支部主催 特別企画セミナー

- ・「心理生理学 ～ひとの生理反応からわかること～」
- ・開催日：平成30年4月3日(火) 17:00-19:30
- ・講師：三宅晋司(産業医科大学教授、日本人間工学会PIE研究部会部会長)

(6) 日本人間工学会東海支部主催「実務者・初学者のための人間工学測定技法講座」
(年6回程度開催予定。)

3-5. 関西支部

{支部長：大須賀 美恵子}

(1) 企画・行事等

1) 見学会 平成30年12月7日(金) メディカル・ミュージアム(予定)

2) 支部大会

開催日：平成30年12月8日(土)(予定)

会場：ピアザ淡海(滋賀県大津市)

大会長：辻村 裕次 先生(滋賀医科大学・社会医学講座)

- 3) 講演会等 平成31年3月頃 (支部総会と併催)
- (2) 会議・総会等
 - 1) 第1回企画幹事会 平成30年6月頃
 - 2) 支部企画イベント (詳細未定) 平成30年10月頃
 - 3) 第1回評議員会役員会合同会議 平成30年12月8日
 - 4) 評議員選挙 平成30年12月～平成31年1月
 - 5) 選挙管理委員会, 第2回企画幹事会 平成31年1月頃
 - 6) 第2回評議員会 (メール審議) 平成31年2月頃
 - 7) 第2回評議員会役員会合同会議 平成31年3月23日 (土) (総会と併催)
 - 8) 支部総会 平成31年3月23日 (土)
 - 9) 優秀発表賞授賞式 (支部総会時)

3-6. 中国・四国支部

{支部長:村田 厚生}

- (1) 支部理事会開催
 - 第1回: 2018年12月上旬, 場所: 未定
 - 第2回: 2019年3月下旬, 場所: 岡山大学工学部 (予定)
- (2) 支部総会開催
 - 2018年12月上旬, 場所: 未定
- (3) 支部大会開催
 - 第51回日本人間工学会中国・四国支部大会
 - 2018年12月上旬, 大会長 (共同): 村田厚生氏, 土井俊央氏 (岡山大学大学院)
 - 場所: 未定
- (4) 支部講演会開催
 - 2018年12月上旬, 場所: 未定
- (5) 支部表彰の実施
 - 2019年3月
- (6) 支部主催・共催の研究会の実施
 - 随時

3-7. 九州・沖縄支部

{支部長:村木 里志}

- (1) 活動計画
 - 1) 第39回支部代議員会
 - ・開催日: 平成30年12月を予定
 - ・会 場: 九州北部を予定
 - 2) 第39回支部総会
 - ・開催日: 平成30年12月を予定
 - ・会 場: 九州北部を予定
 - 3) 第39回支部大会
 - ・開催日: 平成30年12月を予定
 - ・会 場: 九州北部を予定
 - ・大会長: 未定

(2)その他

4. 研究部会活動

4-1. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長：新家 敦}

〈H26. 2. 25～5年以内〉

(1)平成30年度研究部会テーマ

IoT時代の人間工学

(2)活動内容(手段・方法)

- 1)幹事間の電子媒体での持続的な情報交換を行い、部会運営を円滑に行う。
- 2)部会内で定期的に勉強会を開催する。年3回の開催を目標とする。勉強会により、ビッグデータをベースに研究や業務を進める人間工学分野の研究者・実践者の人材拡大を図る。
勉強会の前半を講師講演、後半をビッグデータ活用事例の検討会とし、どのようにビッグデータを活用すればより良い結果が得られるかななどを議論する。
- 3)現在は、監視カメラや自動車用ドライブレコーダー、スマートフォンなど、人の行動を収集するためのセンサーが身の回りに急増し、ネットワークを介してリアルタイムにデータが収集されるIoTの時代となっている。これまでより、研究活動のInputフェーズのコストが大幅に低減された状況下において、人間工学はどのように対応していくべきかを検討する。
- 4)前年度にまとめきれなかった、人間工学研究分野における「ビッグデータ」の定義をまとめる。
- 5)ビッグデータに関して、他の組織と合同で開催するイベントを一件開催する。
- 6)本研究部会の5年間の活動のまとめを行い、学会誌に投稿する。

(3)期待される成果

- 1)ビッグデータの分析には人間工学の知見が必要との社会通念の形成を促進する。
- 2)データサイエンティストまたはビッグデータ分析を行おうとする組織に向けて本研究部会が積極的に情報発信することで、人間工学の知識の必要性を訴求する。これにより、間接的に本学会の会員数を増加させることができると思われる。

4-2. 安全人間工学研究部会

{部会長：鳥居塚 崇}

〈H27. 4. 1～5年以内〉

(1)活動目的

安全人間工学研究部会は、安全に関わる人間工学の研究の情報交換と、様々な分野の安全研究者、実践者と問題点を討議し、広くその成果を学会員ならびに社会に広めることを目的として活動を行う。

(2)活動内容

- 1)研究会を3回程度東京で開催する。領域横断型の研究会にするため、積極的に他学会の関連部会と共催を行う。また、研究会の一部はJES安全委員会発信の「安全に関する提言」にて提言を行うことができることを目標とする。なお、必要に応じて、外国からの講師を招く。
- 2)全国大会での部会主催シンポジウムを開催する。
- 3)安全委員会と協力し、学術会議主催の安全工学シンポジウムにてJES発信のオーガナイズドセッションを企画する。
- 4)他学会の関連部会やその他組織から研究会やシンポジウムに、積極的に協賛する。
- 5)部会員以外にもJESウェブサイト等を通じて開催を告知する。

6) 幹事は鳥居塚(日大)、中西(慶應義塾大)、吉村(海技研)、山出(社会安全研究所)、北村(JR総合研究所)だが、安全人間工学委員会の委員も部会運営に協力する。

4-3. PIE 研究部会

{部会長：三宅 晋司}

<H27. 4. 1～5年以内>

(1) 活動目的

初年度に引き続き、従来の生理心理計測手法とこれを人間工学分野に適用する際の方法論について議論し、新しい生理計測手法や装置に関する情報交換と役に立つ PIE に向けて共通認識をもち、解決すべき課題を明らかにする。さらに、企業と連携して人間工学分野における生理心理計測応用のグッドプラクティス事例の収集を行う。また、倫理的な側面についても議論を進め、必要に応じ啓発活動を行う。

(2) 平成 30 年度の活動内容 (手段・方法)

1. 第 59 回大会にてシンポジウム(ラウンドテーブルディスカッション)「PIE 研究における問題点と Good Practice 事例」を開催する。
2. 2018 年の IEA2018 にて部会主催のシンポジウム PIE2018 を開催する(前年度活動内容 2 参照)。
3. 前年度に引き続き部会編による生理計測に関する資料集(書籍)の執筆者による講演会を実施する。
4. 10-12 月頃にいずれかの支部大会で PIE セッションを企画する。
5. 部会 website へ生理計測に関する情報(機器、解析ソフト、使用レポート等)を掲示する。
6. その他、ワークショップや講習会など、公開企画も含めて検討する。
7. 並行して、部会運営ミーティングあるいはメーリングリスト利用の議論により、部会運営体制を強固なものにし、部会活動をさらに活性化させるとともに、次年度の活動計画を策定する。

(3) 期待される成果

PIE 分野の現状認識、課題の抽出が行え、役に立つ PIE に向けての議論が活性化される。部会外への情報発信により PIE の裾野を広げる。

4-4. 衣服人間工学部会

{部会長：土肥 麻佐子}

<H29. 4. 1～5 年以内>

(1) 活動テーマ

平成 24 年度より継続して「グリーンファッションに関する研究」をテーマにした活動を行なっている。平成 30 年度についても、衣服の分野から着装のあり方、廃棄ゼロを目指した衣服の構造・デザイン、衣服材料の使い方、衣服のリサイクルなど、環境問題を視野に入れた研究活動、啓蒙活動を進めていく予定である。

(2) 活動計画

研究例会の開催 2 回開催予定

- ・9 月 講演および工場見学
- ・2 月 講演および CAD を用いた演習

(3) 期待される成果

講演、工場見学、演習を行うことにより、グリーンファッションに関する研究・教育についての意見交換、研究交流が期待される。

4-5. 航空人間工学部会

{部会長：竹内 由則}

〈H30. 4. 1～5年以内〉

(1) 研究目的

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は、他分野を含む幅広いヒューマンファクター研究にかかわる進展、事故事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討する。

(2) 方法・手段

1) 研究例会の開催

日時：2018年6月22日(金) 10:00-16:30

場所：野村不動産天王洲ビル2F

【予定講演】として

- 1) 「飛行データに基づく不安全要素の抽出：OPSAMS（オプサムズ）」(JAXA)
- 2) 「パイロット視覚情報支援技術：SAVERH（セイバー）」(JAXA)
- 3) 「ヘリコプター安全活動の紹介」（日本ヘリコプター安全チーム(JHST)）
- 4) 「ヒューマンエラーの発生に関して」（仮題）(西日本旅客鉄道(株)安全研究所)
- 5) 「医療事故・ヒューマンエラー」（仮題）(上尾中央総合病院)

2) 施設見学会の実施

下期に施設見学会を計画・実施する。

3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みに活用する。

4) 委員会・幹事会の開催

適宜委員会及び幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。

(3) 期待される成果

航空安全の推進に関わる官・民・学の多くの組織が関わっているため、これらの関係者が交流し討議を重ね、情報を共有する場を当研究部会が提供することにより、航空人間工学の知見獲得が可能となる。また、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものとする。

4-6. アーゴデザイン部会

{部会長：高橋 克実}

〈H30. 4. 1～5年以内〉

(1) 活動テーマ

「Future Experience」～ユーザー、企業、社会環境の三方よしのビジョン提案型手法～

平成30年度はフューチャーエクスペリエンス：Future Experience をテーマとして、新たに研究活動を進める初年度として、これまでのユーザーエクスペリエンスを中心のすえた人間工学的アプローチから、社会環境とユーザー、そして企業活動の三方よしのビジョン提案型デザイン手法の確立に向けた実践的な手法を構築する活動となる。特に各界の事例を通じた調査研究活動を実施する。また、これまで研究してきたビジョン提案型デザイン手法との関係を明快にしてアーゴデザインを実践する。また、日本人間工学会編として出版した「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」をスタートとした研究も、今回のテーマである「Future Experience:FX（三方よしのビジョン提案型デザイン手法）」では、社会性という視点で、これを超越するステップとなるため、もう一度その原点に立ち返り、研究を進める。また、ここに至るまでの経緯や成果を「人間工学」誌に報告する予定で

ある。

(2) 手段・方法

1) FX-WG(ワーキンググループ)の活動強化

FX_WGとして活動を活性化させる。部会活動の新テーマに呼応した「フューチャーエクスペリエンスデザイン手法」の検討を本格化させ、新たな方法論確立に向け、実践によるプロセスを実施可能な形で明確にする。方法論発表の機会を心掛ける。

2) ビジョン提案型デザイン手法の啓蒙・普及活動の実施

「ビジョン提案型デザイン手法」については、これまで以上に EXPERIENCE VISION 普及のためのイベントと兼ね合わせたセミナーやフォーラムを開催して、「FX (三方よしのビジョン提案型デザイン手法)」との連携を図る。

3) 学生会員に対する部会活動の充実

定着した学生会員制度により、学生会員が固定化している。これまで以上に学生の研究やデザイン活動を支援する活動の充実を図る。これにより、次世代を担う研究者やデザイン実務者の育成を強化する。

(3) 期待される効果

テーマに関する研究を本格化することで、社会、環境の課題解決とユーザーの本質的要求を満たす手法を探り、社会環境の変化に対応した人間生活をデザインするための三方よしのビジョン提案型デザイン方法論(手法やプロセス)を提供することができる。更にこの方法論を取り入れた「FUTURE EXPERIENCE」手法の構築により、社会、環境、産業に貢献できる。

(4) 活動予定

- 6月 第4回FXフォーラム、幹事会(関東)
- 8月 コンセプト事例発表会、幹事会
- 10月 見学会開催、幹事会
- 12月 第5回FXフォーラム(関西)
- 1月 幹事会
- 3月 2018年度合宿研究会、アーゴデザイン部会総会、幹事会

4-7. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長：梶谷 哲也}

<H30.4.1~5年以内>

(1) テーマ

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から工学的応用までを多角的に取り上げ、研究者・デザイナーおよび職人どうしの情報交換と研究の活性化、および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者およびデザイナーの育成をはかる。

(2) 手段・方法

感性情報処理や官能評価の基盤となる人間の感覚・知覚・感情・認知等の諸特性、およびそれらの測定・評価方法や数理モデル等の研究成果や製品等の開発成果について先端的独創的な研究を紹介する。加えて、講演会や若手研究者を主体とした研究会や関連の研究・開発施設や工房などの見学会などを必要に応じて企画・実施する。以上の活動を通して研究者やデザイナー相互の情報交換や交流をはかるとともに、若手研究者・デザイナーの研究意欲を喚起し、人間工学に限定されない有益で具体的なアウトプットの創出の機会を支援する。

(3) 期待される成果

主に感性情報処理と官能評価に関わる研究者の関心や専門領域を共有しつつ、新たな情報や手法などに刺激されたり学んだりする機会を広範に提供することにより、とくに若手研究者の裾野の拡大や関連領域の学問との交

流を活性化させることが期待できる。また、研究成果の実用化に伴うさまざまな困難・課題を部会会員が相互に共有・議論する機会を提供・支援することを通して、人間工学のいっそうの発展に資することが期待できる。

以上は、人間工学の実践における人間理解の拡大・深度化にもつながるものと考えられる。それらの過程で、これまで職人の職能としてのみ伝えられてきたモノづくりのノウハウを技術化・見える化を通して、それらのノウハウを現職の職人・デザイナーに提案・還元することで、これまでのモノづくりに新たな価値（例えば感性価値）を付加することを可能とする。

4-8. 看護人間工学部会

{部会長：水戸 優子}

〈H30. 4. 1～1年以内〉

(1) テーマ

より安全で安楽な根拠ある看護技術や看護器機・用具の開発、QOLの向上に向けた環境の提案、快適な職場や住まい、高齢者に優しい環境などの研究成果を打ち出すとともに、看護実践・教育現場にフィードバックする。

(2) 手段・方法

1) 第26回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会の開催

武庫川女子大学看護学部 徳重あつ子教授が主催し、第26回看護人間工学部会総会・研究発表会・講演会を開催する予定である。一般演題10題を目標に部会員に呼びかけ、参加を促す。この時の総会にて、一般社団法人日本人間工学会より独立し看護人間工学会（仮称）の設立に関わる審議を行い、方針を決定する。

2) 平成30年度の1年かけて、名称および目的、規約、ロゴマーク、ホームページ、その他刊行物などを見直し、新たに作成を行う。平成31年3月末をもって「一般社団法人日本人間工学会看護人間工学会」から独立し、「看護人間工学会（仮称）」としたい。

3) 看護人間工学部会25年の活動報告をまとめ、一般社団法人日本人間工学会に投稿する。

4) 従来通り、日本人間工学会誌に部会から論文を投稿するよう呼びかける。

5) 従来通り、日本人間工学会第60回大会に参加するよう呼びかける。

6) 看護人間工学研究誌第19巻を発行（平成31年3月）し、部会員に送付する。

7) ホームページの英語版を含めて内容を充実させる。

(3) 期待される成果

1) 第26回看護人間工学部会 総会・研究会への発表、参加者を昨年より増やす。

2) 日本人間工学会第60回大会への発表、参加人数を増やす。

3) 看護人間工学部会、人間工学会への入会者を増やす。

4) 部会員による「人間工学」、「看護人間工学研究誌」の投稿を増やす。

4-9. 海事人間工学研究部会

{部会長：才木 常正}

〈H30. 4. 1～5年以内〉

(1) テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから、他国に比べて多くの人が海に携わった仕事に従事している。更に、仕事として関わりが無くても、非常に多くの人が趣味としてマリンレジャーを楽しんでいる。しかしながら、これら海事の分野において、人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ少ない。そこで、本研究会の活動を通して、人間工学を海事分野に広く普及させ、海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品導入を加速させる。

(2) 手段・方法

1) 企画セッションの提案

毎年度、人間工学会の全国大会や支部大会で本研究会が主体となった企画セッションを行い、様々な分野の人間工学の研究者と議論を交わし、海事人間工学研究の活性化を行う。平成 30 年度は関東支部大会で企画セッションを行う予定である。

2) 研究会・見学会の開催

毎年度、様々な海事関連の民間企業や公設研究機関等を見学することで、研究会メンバーの見聞を広げて幅広い知識を得る。この見学には研究会メンバー以外にも参加して貰い、海事人間工学研究に新規の加入される研究者を増やす。平成 30 年度の見学先としては、兵庫県立農林水産技術総合センターの水産技術センターを予定している。

3) 研究会による新事業の提案

新規の海事人間工学の研究開発テーマを本研究会メンバーで議論し、公的助成事業等に本研究会が主体でトライする。平成 30 年度は事業に申請する研究開発テーマについて検討する。

4) 幹事会の開催

研究部会の円滑な運営を図るため、毎年度 2 回以上の幹事会を開催する。

(3) 期待される効果

企画セッション及び見学会の開催を通じて、最新の海事関連研究に関する情報を発信することにより、他分野の研究者の関心を高める。そして、これら研究者と連携することで、更なる海事関連研究の活性化を図り、課題解決を図る。

4-10. ワーク・アーゴノミクス研究部会

{部会長：青木 和夫}

<H30. 4. 1~5年以内>

(1) テーマ

情報通信機器の発達による作業時の身体活動の減少によって、様々な健康問題が生じている。一方で、宅配作業や建設作業など、身体的負荷や劣悪な環境下での作業、長時間労働も増加しており、大きな社会問題となっている。そこで仕事に起因する様々な身体不調や傷害を防止するために、作業機器、働き方、働く環境などに関する人間工学的な問題点を明らかにし、その改善方法について検討することを目的とする。

(2) 手段・方法

- ・仕事と健康・安全に関する研究会（講演会等）を開く。
- ・作業現場などを見学会を行い、検討会を開く。
- ・学会大会、専門家認定機構の集会などで成果を発表する。

(3) 期待される効果

作業と人間の健康・安全に関する人間工学の研究成果やその実践への応用などの情報交換をもとに、作業や仕事の改善の提言と一般社会への普及のための組織的基盤が形成される。

4-11. システム大会部会

{部会長：衛藤 憲人}

(1) 本会の目的

ヒトをシステム論的立場から研究・議論することを目的に立ち上がった本部会も今年で 26 年目を迎えた。毎年 3 月に開催される卒業研究生・修士研究生を中心とした研究発表会は、研究者として第一歩を踏み出す若手研究者にとって、日本人間工学会全国大会（毎年 6 月開催）・各地方支部大会前の所謂、萌芽的研究段階における重要な発表の場となっている。特に近年、日本全国から企業に在籍する研究者の発表も増え、医学から工学にわたる幅広い分野の専門家、学際領域の研究者、様々な大学の教員、学生、企業研究者が集い議論でき

る同発表会は特に学生たちに非常に好評である。

(2)活動の内容

第26回システム大会（平成29年度大会、早稲田大学・東北大学共催）を早稲田大学理工キャンパス（東京都新宿区）にて開催した。来年度も同様の大会開催を計画しているが、近年のシステム大会の全国的な認知度向上を利用し、学生、若手研究者にも人間工学への興味をもってもらい、日本人間工学会会員にすべく努力する予定である。そのために、年数回の幹事会（大学教員を中心に構成）と来年3月の第27回日本人間工学会システム大会（幹事校未定）を計画している。

一般社団法人日本人間工学会2018年度 委員会/担当等一覧

委員会/担当名	担当・委員長・副委員長等	活動のポイント等
常設委員会・担当（長期的及び継続的に実施する事業）		
総務担当	石橋基範、中西美和	学会運営の執行管理、事務局機能の強化の検討
財務担当	大内啓子、辛島光彦	財務管理と学会財政に関する中長期計画等の提案
広報委員会	松田文子、齋藤祐太	HP の運用推進、GPDB による実践事例公開、人間工学の社会発信
編集委員会	赤松幹之、村木里志	学会誌の編集と発行、電子投稿・査読システムの運用
国際協力委員会	鳥居塚崇、小谷賢太郎	国際人間工学連合・アジア人間工学デザイン会議等、国際協力活動の推進
ISO/TC159 国内対策委員会	佐藤 洋、横井孝志	ISO/TC159 に関わる規格の提案・作成・審議、JIS 規格案作成と普及
表彰委員会	堀江良典、水野有希	表彰制度の見直しと整備、各賞受賞候補者の選考、国際表彰の推進
安全人間工学委員会	首藤由紀、鳥居塚崇	安全に関わる学会活動の提言等、安全工学シンポジウム運営への参加
学術担当	横井郁子、青木和夫	日本学術会議との連携、横幹連合への役員派遣、科研費の細目要望
企画担当	岡田 明	公開講座の企画、大会における学会企画シンポジウムの企画等
人間工学専門家認定機構	福住伸一、鳥居塚崇	認定・再認定実施、講演会・セミナー等の開催、GPDB への協力
臨時委員会・担当（目標と期間を定め、成果を組織的に活用する事業）		
若手支援委員会	申 紅仙、加藤麻樹	学生や若手が学会活動に継続的に関わる活動や枠組みを検討
企業活動推進委員会	易 強、下村義弘、善方日出夫	企業活動や産学連携プロジェクトの見える化、活性化を検討
学会改革・戦略委員会	榎原 毅、山田クリス孝介	学会活動の活性化をはかる組織運営のあり方について検討
倫理指針検討委員会	石橋基範、榎原 毅	人間工学研究のための倫理指針の改訂を検討
子どもの ICT 活用委員会	柴田隆史、岡田 衛	学校等の ICT 機器の使用に関する人間工学課題の検討と情報の共有、ガイドライン作成準備
IEA 担当	藤田祐志、河合隆史	IEA ウェブサイトの運営にかかわる支援
第 59 回大会担当	大橋智樹	2018 年 6 月 2～3 日に大会開催
第 60 回大会担当	青木和夫	2019 年 6 月 15～16 日に大会開催